

リファレンス
ガイド

hp StorageWorks 1/16テープ スーパーローダ

第2版（2002年11月）

製品番号：272363-192

このガイドでは、インストール手順について説明します。また、操作、トラブルシューティング、および将来必要となるアップグレードの手順についても説明します。



© Hewlett-Packard Company, 2002.

© 日本ヒューレット・パッカード株式会社、2002

Hewlett-Packard Companyは、本書についていかなる保証（商品性および特定の目的のための適合性に関する黙示の保証を含む）も与えるものではありません。Hewlett-Packard Companyは、本書中の誤りに対して、また本書の供給、機能または使用に関連して生じた付随的損害、派生的損害または間接的損害を含めいかなる損害についても、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書には、著作権によって保護されている機密情報が掲載されています。本書のいかなる部分も、Hewlett-Packardの事前の書面による承諾なしに複写、複製、あるいは他の言語に翻訳することはできません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

Microsoft、MS-DOS、WindowsおよびWindows NTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、そのままの状態を提供されるもので、いかなる保証も含まれません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett-Packard Company製品に対する保証については、当該製品に付属の限定保証書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

1/16テープ スーパーローダ リファレンス ガイド

第2版（2002年11月）

製品番号: 272363-192

目次

このガイドについて	
規則	x
表記上の規則	x
本文中の記号	x
装置の記号	xi
ラックに関する注意	xii
HPのストレージのWebサイト	xii
1 概要	
正面	1
メール スロット	2
LCD	2
ファンクション キー	2
ステータスLED	3
オン/オフ ボタン	3
マガジン	3
背面	4
冷却ファン	4
AC電源プラグ	4
Ethernet接続	5
SCSI接続	5
製造用スイッチ	5
内部	6
ピッカー	6
DCA	7
バーコードリーダー	7
サポートされるソフトウェア	7

2	インストールおよび設定	
	準備	9
	SCSIバスの要件	9
	SCSIケーブルおよびターミネータの要件	10
	SCSIケーブルの長さ	10
	アクセサリ	10
	インストールする場所	11
	必要なツールおよびハードウェア部品	11
	ラックへの設置	12
	ラックからのスーパーローダの取り外し	19
	SCSI接続	19
	デジジー チェーン接続	21
	Ethernet接続	21
	電源の投入	21
	検査	22
	設定	23
	SCSI ID	25
	制御モード	26
	Sequentialモードの動作	28
	Ethernet	29
	スーパーローダのIPアドレス	29
	サブネット マスク	32
	IPゲートウェイ	33
	SNMPサーバ	33
	タイム サーバ	34
	時刻	35
	セキュリティ	38
	セキュリティの設定	38
	パスワードの設定	39
	パスワードを忘れた場合	41
3	テープ カートリッジの使用方法	
	テープ カートリッジの定義	43
	テープ カートリッジのメンテナンス	44
	テープ カートリッジの検査	44
	テープ カートリッジの保護	45
	テープ カートリッジの輸送	46
	テープ カートリッジの保管	46
	書き込み禁止スイッチの使用	47

4	スーパーローダの操作	
	フロントパネルの各部	49
	ファンクションキー	49
	LED	50
	LCD	50
	フロントパネルの機能	52
	パスワードの設定	52
	デフォルトのフロントパネルパスワード	52
	ログアウト	52
	データカートリッジの使用	53
	1本のカートリッジの挿入	53
	1本のカートリッジの移動	55
	1本のカートリッジの取り出し	56
	マガジン ブランクおよびマガジンの使用	58
	マガジン ブランクの取り外し	58
	マガジンのアンロード	58
	マガジンのインストール	60
	カートリッジのロードおよびアンロード	61
	手動によるマガジンの取り外し	62
	向きの変更	64
	ステータス情報の表示	65
	スーパーローダ ステータス	65
	ファームウェア バージョンの表示	67
	エレメント ステータスの表示	68
	テープドライブ ステータスの表示	70
	テープドライブ バージョンの表示	70
	Ethernet情報の表示	71
	インベントリの実行	72
	データ圧縮の設定	72
	ファームウェアのアップデート	73
	設定	73
	Web Administration	74
	デフォルトのパスワード	74
	ステータス情報の表示	75
	テープの移動	76
	インベントリの実行	77
	HOMEコマンドの発行	77
	診断テストの実行	78

システム時刻の設定	79
SCSI IDの変更	81
制御モードの設定	82
圧縮の設定	83
クリーニングモードの設定	84
Ethernetの設定	85
セキュリティ オプションの設定	87
パスワードの設定	88
ファームウェアのアップデート	89
5 テープドライブのクリーニング	
クリーニング テープの位置の設定	91
クリーニング テープの挿入	92
クリーニング テープの格納	92
クリーニング テープの取り出し	94
テープドライブのクリーニング方法	94
手動クリーニング	94
自動クリーニング	95
ソフトウェア	97
6 トラブルシューティング	
HPのサポート窓口に連絡する前に	99
動作上の問題	99
エラー メッセージ	100
診断テスト	107
A 規定に関するご注意	
各国別勧告	109
Federal Communications Commission Notice	109
Class A Equipment	110
Class B Equipment	110
Modifications	110
Cables	110
Declaration of Conformity for products marked with the FCC logo -	
United States only	110
Canadian Notice (Avis Canadien)	111
Class A Equipment	111
Class B Equipment	111
European Union Notice	112
Taiwan Notice	112

B	静電気対策	
	アースの方法	114
C	仕様	
	物理仕様	115
	性能仕様	115
	電源仕様	116
	環境仕様	117
	音響およびノイズの制限	117
D	CRUのアップグレード/交換	
	DCAの交換	119
	DCAの取り外し	119
	DCAのインストール	122
	バーコードリーダーのインストール	123
	索引	

このガイドについて

このリファレンス ガイドでは、以下について説明します。

- スーパーローダのインストールおよび設定
- テープカートリッジの適切な使用およびメンテナンス
- スーパーローダの操作
- スーパーローダのトラブルシューティング
- カスタマー交換可能ユニットのアップグレードまたは交換

「このガイドについて」では、以下について説明します。

- 規則、xページ
- ラックに関する注意、xiiページ
- HPのストレージのWebサイト、xiiページ

規則

「規則」では、以下について説明します。

- 表記上の規則
- 本文中の記号
- 装置の記号

表記上の規則

このガイドでは、表1の表記規則を採用しています。

表1: 表記上の規則

項目	規則
キー名	太字で表記します
フィールド名、メニュー アイテム、ボタン名、ダイアログ ボックス名	[]で囲んで表記します
ファイル名	イタリック体で表記します
ユーザ入力、コマンドおよびディレクトリ名、システム応答（出力およびメッセージ）	Monospaceフォントで表記します コマンド名は、大文字と小文字を区別しない限り、すべてMonospaceフォントの大文字で表記します
変数	イタリック体のMonospaceフォントで表記します
Webサイトアドレス	Futuraフォントで表記します (http://www.hp.com/)

本文中の記号

本文中の以下の記号の意味を示します。



警告: その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こす恐れがある警告事項を表します。



注意: その指示に従わないと、装置の損傷やデータの消失を引き起こす恐れがある注意事項を表します。

注: 解説、補足または役に立つ情報を示します。

装置の記号

安全上の注意が必要な装置の各部には、以下の記号が表示されています。



装置の表面または部分で、高電圧が発生する可能性があることを示します。カバーの部品の修理は専門の技術者にご依頼ください。

警告: 感電を防止するために、このカバーを開けないようにしてください。



これらの記号が貼付されたRJ-45ソケットはネットワーク インタフェース接続を示します。

警告: 感電、火災または装置の損傷を防止するために、電話または電気通信用のコネクタをこのソケットに接続しないようにしてください。



装置の表面または内部部品の温度が非常に高くなる可能性があることを示します。この表面に手を触れるとやけどをする場合があります。

警告: 表面が熱くなっているため、やけどをしないように、システムの内部部品が十分に冷めてから手を触れてください。



電源やシステムにこれらの記号が付いている場合、装置の電源が複数あることを示します。

警告: 感電しないように、電源コードをすべて抜き取ってシステムの電源を完全に切ってください。



左のマークの付いた製品および機器は、1人で安全に取り扱うことができる重量を超えていることを示しています。

警告: けがや装置の損傷を防ぐために、ご使用の地域で定められた重量のある装置の安全な取り扱いに関する規定に従ってください。

ラックに関する注意

「ラックに関する注意」では、けがや装置の損傷の防止に関する注意点を示します。



警告: けがや装置の損傷を防止するために、次の点に注意してください。

- ラックの水平脚を床まで延ばしてください。
 - ラックの全重量が水平脚にかかるようにしてください。
 - 1つのラックだけを設置する場合は、ラックに固定脚を取り付けてください。
 - 複数のラックを設置する場合は、ラックを連結してください。
 - ラック コンポーネントは一度に1つずつ引き出してください。一度に複数のラック コンポーネントを引き出すと、ラックが不安定になる場合があります。
-

HPのストレージのWebサイト

HPのWebサイトでは、最新のドライバに関する製品情報を提供しています。HPのストレージのWebサイト<http://www.hp.com/>（英語）にアクセスするには、インターネットにログインする必要があります。このWebサイトから、適切な製品またはソリューションを選択してください。

概要



HP StorageWorks 1/16テープ スーパーローダは、単純な自動データバックアップのためのコンパクトな大容量ソリューションを低コストで提供します。スーパーローダは、DLT1テープドライブと1つまたは2つのマガジンをサポートし、各マガジンには最大8本のカートリッジを収容できます。

正面

スーパーローダの正面側には、メール スロット、LCD、ファンクション キー、ステータス LED、オン/オフ ボタン、および左右のマガジンがあります。

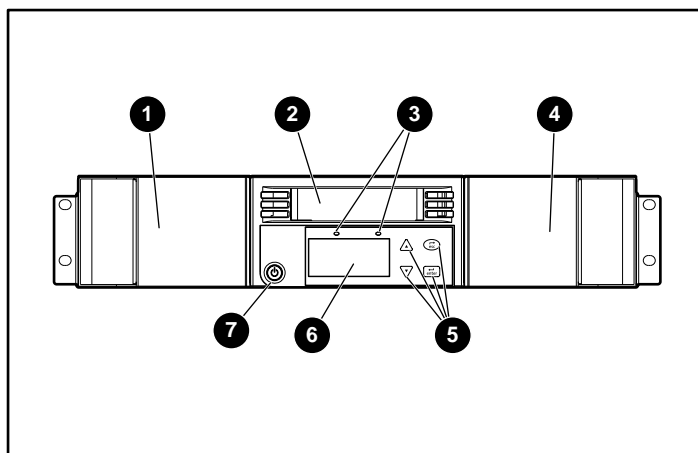


図1: スーパーローダの正面

- | | | | |
|---|----------|---|------------|
| ① | 左マガジン | ⑤ | ファンクション キー |
| ② | メール スロット | ⑥ | LCD |
| ③ | ステータスLED | ⑦ | オン/オフ ボタン |
| ④ | 右マガジン | | |

メール スロット

スーパーローダには、1本のカートリッジをロードまたはアンロードできる、メール スロットと呼ばれる手動のエントリ ポートがあります。セキュリティを維持するために、メール スロットはパスワードで保護することができます。両方のマガジンのすべてのスロットにカートリッジが搭載されていても、テープドライブが空になっていれば、メール スロットにカートリッジを挿入することができます。

LCD

LCDによって、スクロール メニューを使用して、診断テストを実行したりコマンドを入力したりすることができます。

ファンクション キー

ファンクション キーによって、スクロール メニューの中を移動して、オプションを選択することができます。

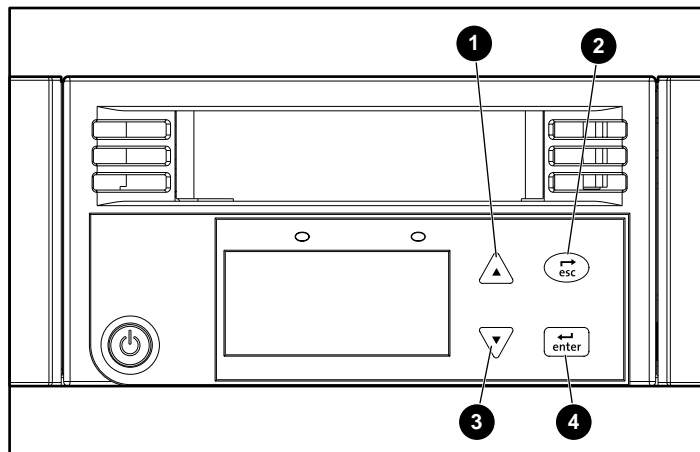






図2: ファンクション キー

- ①  スクロール アップ。メニューの中を移動したり数字を変更したりするために使用します。
- ②  Esc。前のメニューに戻ったり画面上で後ろに移動したりするために使用します。
- ③  スクロール ダウン。メニューの中を移動したり数字を変更したりするために使用します。
- ④  Enter。オプションを選択するために使用します。

ステータスLED

ステータスLEDは、スーパーローダおよびドライブのステータス情報を示します。左側の緑色のLEDはレディ ステータス情報を示し、右側の黄色のLEDは障害ステータス情報を示します。

オン/オフ ボタン

オン/オフ ボタンはソフト キーです。つまり、スーパーローダがカートリッジを移動しているときにオン/オフ ボタンを押すと、その移動が終了してから電源が切れます。ただし、その他の機能(テープへの書き込みや診断テストなど)を実行しているときにオン/オフ ボタンを押すと、それらの動作は中断され、終了します。

マガジン

マガジンには、スーパーローダの内部でカートリッジを移動するためのロボット機構の一部が含まれています。スーパーローダには、1つまたは2つのカートリッジ マガジンが装備されています。マガジンは取り外し可能で、各マガジンは最大8本のカートリッジを収容します。スーパーローダにマガジンが1つしか装備されていない場合、もう一方のマガジンベイにはマガジン ブランクがインストールされています。マガジンには、データテープカートリッジが格納されますが、クリーニング カートリッジを格納することもできます。

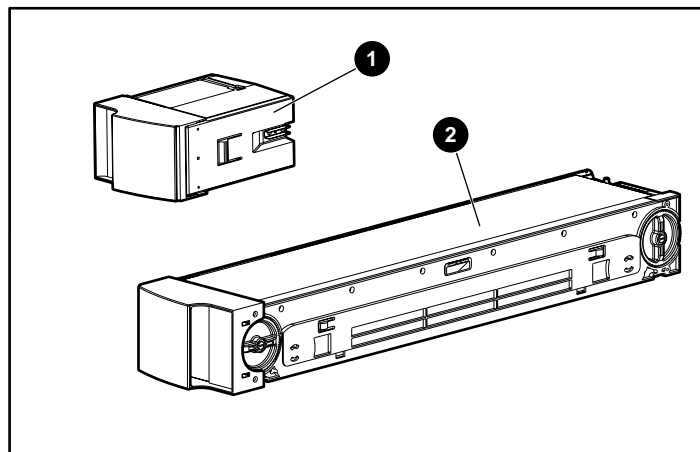


図3: マガジン ブランク①とマガジン②

背面

スーパーローダの背面側には、ファンと接続ポートがあります。

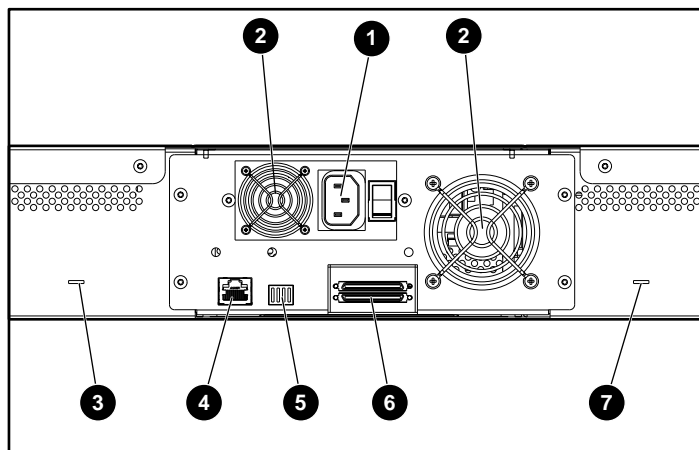


図4: スーパーローダの背面

- | | | | |
|---|--------------|---|-------------|
| ① | AC電源プラグ | ⑤ | 製造用スイッチ |
| ② | ファン | ⑥ | SCSIコネクタ |
| ③ | 手動テープ排出スロット | ⑦ | 手動テープ排出スロット |
| ④ | Ethernetコネクタ | | |

冷却ファン

スーパーローダは、システム冷却ファンに加えて、パワー サプライを冷却するための2個目のファンを装備しています。これらのファンにより、テープドライブパスおよびすべての内部電子部品が許容温度範囲内に維持されます。必要な仕様については、「C 仕様」を参照してください。

AC電源プラグ

スーパーローダには、110/220VのAC電源を接続する必要があります。

Ethernet接続

Ethernet接続により、スーパーローダをネットワークに接続して、リモートで管理することができます。ネットワークを経由して、スーパーローダは、SNMPサーバおよびSNTR (Simple Network Time Protocol) タイムサーバにアクセスできます。Ethernet接続は、FTP (File Transfer Protocol) およびHTTP (Hyper Text Transfer Protocol) をサポートします。FTPを使用することにより、ファームウェアアップデートをダウンロードでき、HTTPを使用することにより、診断などの管理タスクを実行できます。

SCSI接続

スーパーローダは、LVD (低電圧ディファレンシャル) およびSE (シングルエンド) 接続の両方をサポートします。68ピンのVHDCIコネクタにより、スーパーローダは外部サーバに接続されます。LVD接続では、シングルエンドSCSI接続よりも事実上多くのデバイスを、より長いケーブルを使用して接続できます。

製造用スイッチ

ドライブ キャリア アセンブリ (DCA) の背面にあるこのスイッチには、現在のところユーザ機能はありません。

内部

図5に、スーパーローダの内部を示します。ピッカーは、フロントパネルとメール スロットの後ろにあり、メール スロット、マガジン、およびテープ ドライブとの間でカートリッジの出し入れを行います。ドライブ キャリア アセンブリ (DCA) は、テープ ドライブ、内蔵パワー サプライ、および冷却ファンを含み、1つのコンポーネントとして取り外したり取り付けたりすることができます。

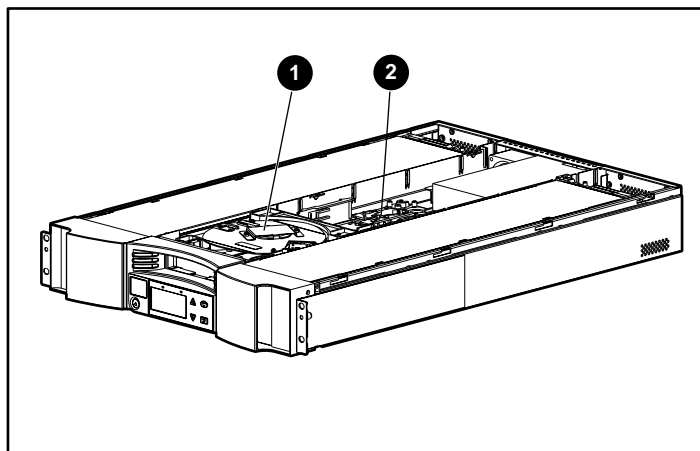


図5: スーパーローダの内部

- ① ピッカー
- ② ドライブ キャリア アセンブリ

ピッカー

ピッカーは、カートリッジを1つの位置から別の位置に移動します。1つのモーターがピッカー プラットフォームを回転させることにより、ピッカー アームがドライブ、メール スロット、または必要なマガジンの前に移動します。もう1つのモーターによって、ピッカー アームは、カートリッジを出し入れできる位置に移動します。回転移動用モーターは、カートリッジのノッチにアームをかみ合わせ、平行移動用モーターは、カートリッジを、ピッカーからドライブ (またはマガジンかメール スロット) に、あるいはドライブ (またはマガジンかメール スロット) からピッカーに移動します。

DCA

ドライブ キャリア アセンブリ (DCA) には、DLT1 テープ ドライブ が組み込まれています。DCA により、ドライブ の取り外しが容易になります。スーパーローダのトップカバーを取り外さなくても、DCA を交換することによって、テープドライブを交換することができます。

バーコードリーダー

バーコードリーダーは、オプションです。バーコードリーダーは、カートリッジのバーコードラベルを読み取ることにより、インベントリフィードバックを、ホストアプリケーションやLCDパネルに提供できます。スーパーローダは、カスタマイズされたインベントリデータを、不揮発性メモリに保存します。

最大限の性能を得るために、HPが提供するバーコードラベル(製品番号C9240-67903)だけを使用することをおすすめします。

サポートされるソフトウェア

スーパーローダは、バックアップアプリケーションを使用するMicrosoft® Windows NT®と、ネイティブモードまたはバックアップアプリケーションを使用するWindows® 2000をサポートします。

また、スーパーローダは、Computer Associates ARCserveやVERITAS BackupExecなどの広く使用されているバックアップソフトウェアと互換性があります。

注: スーパーローダがサポートするバージョンについては、オペレーティングシステムおよびバックアップソフトウェアの製造販売元にお問い合わせください。

インストールおよび設定

2

準備

作業場所で静電気放電 (ESD) が発生しないことを確認してください。詳しくは、「B 静電気対策」を参照してください。#2プラス ドライバが必要です。

SCSIバスの要件

スーパーローダは、シングルエンド (SE) と低電圧ディファレンシャル (LVD) の両方の通信をサポートするSCSIインタフェースを装備しています。スーパーローダには、高電圧ディファレンシャル (HVD) SCSIバスとの互換性はありません。

スーパーローダでは、現在、次のコントローラがサポートされています。

- デュアルチャネル64Bit/66MHz Wide Ultra3 SCSIアダプタ
- シングルチャネル64Bit/66MHz Wide Ultra3 SCSIアダプタ
- 64ビットデュアルチャネルWide Ultra2 SCSIアダプタ

SCSIホストアダプタカードも、SuperLoaderの接続に使用するSCSIバスタイプをサポートしていなければなりません。LVD SCSIバスを使用する場合は、LVDをサポートするホストアダプタカードを使用してください。

スーパーローダには、次のケーブルが付属しています。

- 68ピンVHDCIコネクタ-68ピンVHDCIコネクタ、0.092mケーブル
- 68ピンVHDCIコネクタ-68ピンVHDCIコネクタ、1.83mケーブル
- 68ピンVHDCIコネクタ-68ピンHDコネクタ、1.83mケーブル

注: 最大限の性能が得られるのは、インタフェースがLVD SCSIバスとして使用されている場合です。

SCSIケーブルおよびターミネータの要件

スーパーローダがSCSIバス上の最後のデバイスである場合は、スーパーローダの背面パネルにあるSCSIコネクタにターミネータを取り付ける必要があります。ターミネータはSCSIバスの両端に取り付ける必要がありますが、通常は、ホストアダプタがフロントエンドのターミネーションを提供します。

SCSIケーブルの長さ

LVD SCSI構成での最大バス長は、12mです。バスのケーブル長を調べるには、各デバイスをバスに接続するSCSIケーブルの長さを測定して、それらの合計の長さを求めます。その合計の長さに、内部SCSIケーブルの40.64cmを加えます。

アクセサリ

各スーパーローダには、次のアクセサリが付属しています。

- インストレーション ポスター
- SCSIホスト ケーブル
- RJ-45 Ethernetケーブル (3.048m)
- SCSIターミネータ
- スーパーローダをラックに設置するためのハードウェア ブラケット
- マガジン × 1
- マガジン ブランク × 1
- データカートリッジ × 1
- 電源コード
- ラックマウント テンプレート
- ドキュメンテーションCD (PDFファイル形式のマニュアル)

インストールする場所



注意: テープおよびテープドライブの損傷を防ぐために、スーパーローダは、ユニットの正面に冷却用の排気が直接当たらない場所に配置してください。これは、ごみが外部からテープパスに入る量を最小限に抑えるためです。

次の条件に適合する場所を選んでください。

- 室温: 10 ~ 35
- 電源
 - AC電圧: 100 ~ 127V、または200 ~ 240V
 - 周波数: 50 ~ 60Hz
- 空気質: ほこりの少ない場所。頻繁に使用されるドアや通路の近く、貯蔵品が積み重ねられてほこりがたまっている場所、煙が充満した部屋などは避けてください。印刷機のそばは、空中を浮遊するインクによってテープドライブが汚染されるため、スーパーローダは配置しないでください。

注: ほこりやごみが多いと、テープおよびテープドライブが損傷する場合があります。

- 湿度: 20 ~ 80%の相対湿度（結露しないこと）
- 正面側のスペース: ラックドアからは約5cm、壁または固い物体からは約15cm離してください。メールスロットにカートリッジを挿入するには約30cmのスペースが必要です。

必要なツールおよびハードウェア部品

スーパーローダをインストールするには、プラスドライバーが必要です。

必要な部品がすべて揃っていることを確認してから、インストールを開始してください（これらの部品はラックに付属しています）。次の部品が必要です。

- クリップナット×8（オプションのインストレーションレールを使用する場合は、さらに4個のクリップナット）
- スプリングクリップ付きU溝ブラケット×2
- リアサポートブラケット×2

- リア サポート ブラケット ネジ × 8
- 取り付けネジ × 8(オプションのインストレーション レールを使用する場合は、さらに4本の取り付けネジ)
- ラック テンプレート

ラックへの設置

スーパーローダを安全にラックに設置するには、2人で作業する必要があります。



警告: 作業を開始する前に、ラックが十分に安定していることを確認してください。ラックに水平脚が付いている場合は床まで延ばし、固定脚が必要な場合は取り付けてください。ラック転倒防止器が付いている場合は、しっかり固定してください。転倒防止器が緩んでいると、ラックが倒れて、けがをしたりスーパーローダが損傷したりする恐れがあります。



注意: インストール作業中は、スーパーローダのトップカバーを取り外さないでください。トップカバーを取り外すと、スーパーローダの損傷を引き起こす恐れがあります。また、スーパーローダのシャーシが曲がって正しくインストールできなくなります。



注意: ラックおよびラックに設置するすべての装置は、必ず、正しくアース接続してください。ラック コンポーネント全体の電流が、パワー ディストリビューション ユニットまたはコンセントの電流定格を超えていないことを確認してください。



注意: スーパーローダの出荷時には、1つのマガジンと1つのマガジン ブランクがインストールされています。マガジン ブランクは、固定されていません。スーパーローダをラックにインストールする際は、マガジン ブランクのハンドルを使用しないでください。

スーパーローダをラックに設置するには、以下の手順に従ってください。

1. ライブラリに付属のテンプレートを使用して、ラックのマウンティングレールに、クリップナットとラック設置用部品の取り付け位置を示すマークを付けます。

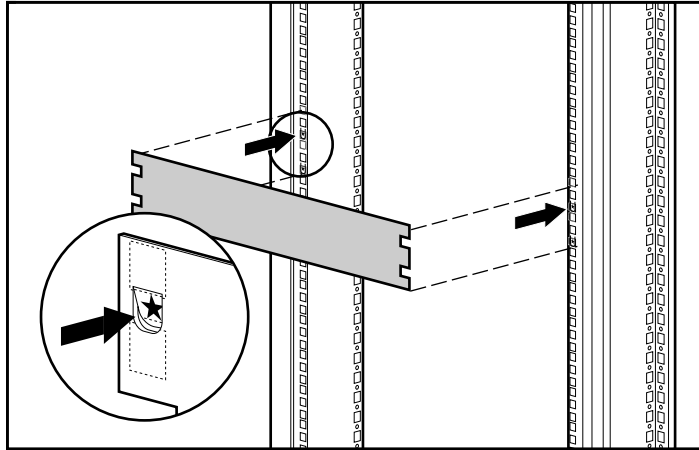


図6: ラック テンプレートを使用して測定する

2. 2個のクリップナットを、ラックの各フロント レールの、テンプレートを使用してマークを付けた穴の位置に取り付けます。
3. 2個のクリップナットを、ラックの各リア レールの、テンプレートを使用してマークを付けた穴の位置に取り付けます。
4. スーパーローダの下に装置が設置されていない場合は、インストール中にスーパーローダを支えるための補助として、オプションのインストレーション レールを使用します。
 - a. 4個のクリップナットを、ラック正面の各レールに2個ずつ取り付けます。1個目のクリップナットは、下側のスーパーローダ用のクリップナットの2つ下の穴に取り付けます。2個目のクリップナットは、1個目のクリップナットの2つ下の穴に取り付けます。
 - b. 1本のオプションのマウンティングレールを、支持棚が内側を向くようにしてラックに挿入します。

- c. 曲がったタブを、ラックのリア レールの外側の穴に引っ掛けます**①**。
- d. レールの穴が、前に取り付けたクリップナットと合うように、レールの位置を調節します**②**。
- e. 2本のネジを使用して固定します**③**。
- f. もう1本のオプションのマウンティング レールを、手順b ~ eを使用して取り付けます。

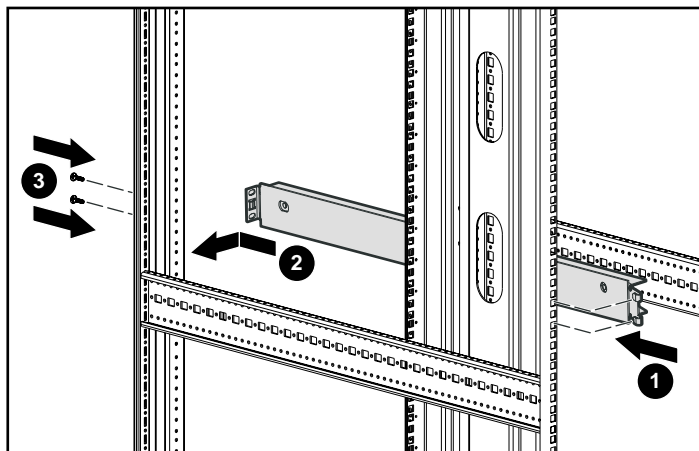


図7: オプションのインストレーション レールを取り付ける

- 2個のサポート ブラケットをスーパーローダの背面に取り付けて、ネジを締めて固定します。



注意: U溝ブラケットに正しく入るように、サポート ブラケットがスーパーローダの側面とまっすぐに揃っていることを確認してください。

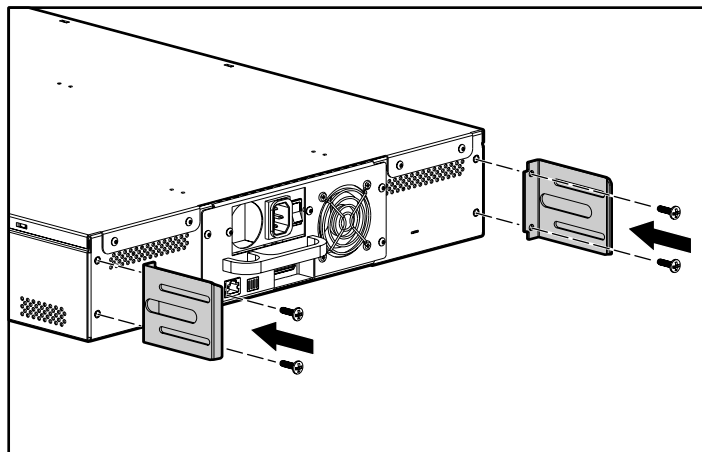


図8: スーパーローダにサポート ブラケットを取り付ける

6. ラックの各リア レールに1個のU溝ブラケットを取り付けて、ネジをクリップ ナットに通します（ブラケットの側面を、2つの穴だけを使用して取り付けます）。ネジはまだきつく締めないでください。

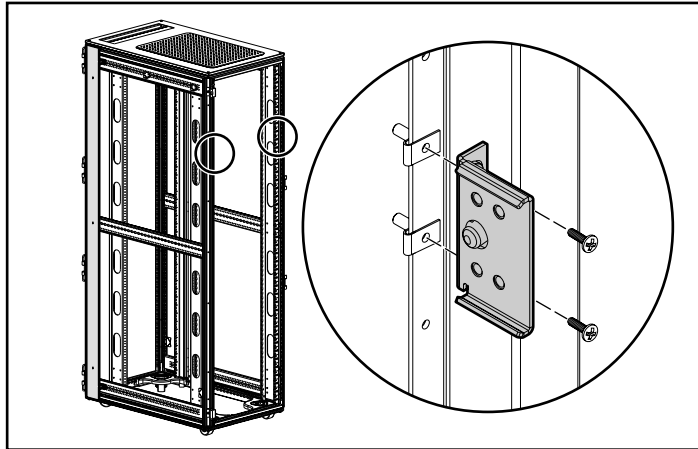


図9: U溝ブラケットをラックに取り付ける

7. スーパーローダをラック内に入れて、各サポート ブラケットの位置をU溝ブラケットに合わせます。各サポート ブラケットを、U溝ブラケットのリップに沿ってスライドさせます。

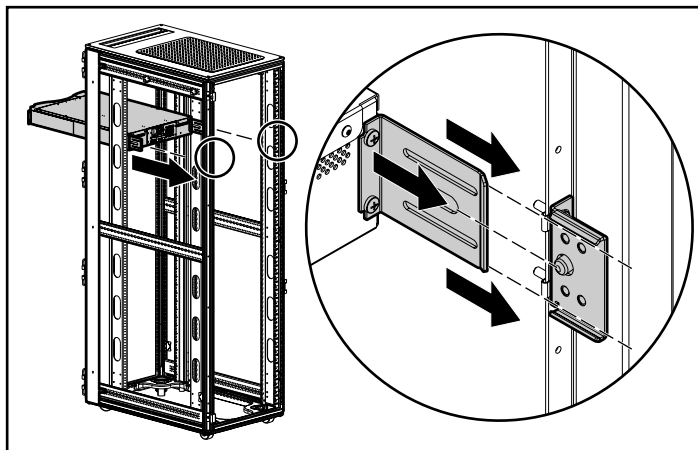


図10: スーパーローダをラック内に入れる

8. 以下のようにして、スーパーローダをラック内にスライドさせます①。
 - a. スーパーローダの正面のタブに付いているマウンティング スタッドをスライドさせて、クリップナットの間にある穴に入れます。
 - b. スーパーローダの正面のタブを、ラック正面のクリップ ナットに合わせます。
 - c. 背面のサポート ブラケットを背面のU溝ブラケットのロック用タブと合わせます。

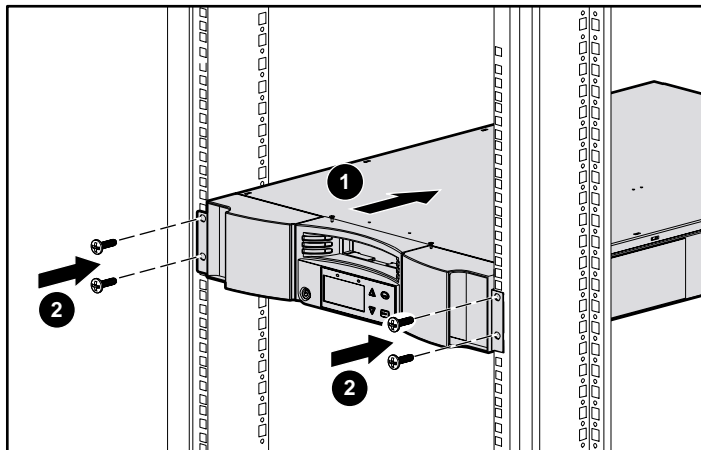


図11: スーパーローダをラックの正面で固定する

9. 正面のタブとラック正面の各クリップ ナットにネジを通します(まだきつく締めないでください)②。
10. スーパーローダが水平になっていることを確認します。必要に応じて調節してください。
11. 正面のタブとラック正面のクリップ ナットに通した4本のネジをしっかりと締めます。
12. U溝ブラケットとラック背面のクリップ ナットに通した4本のネジをしっかりと締めます。
13. サポート ブラケットとU溝ブラケットに4本のネジを通して、しっかりと締めます。

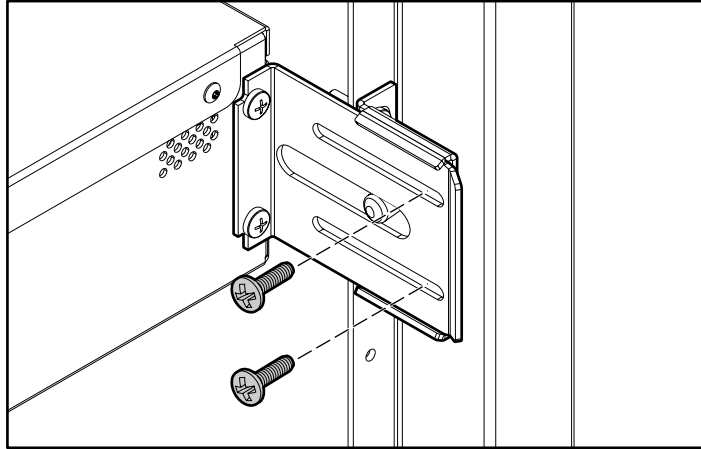


図12: 背面のU溝ブラケットのネジ

14. 追加のオプションをインストールする予定がある場合は、以下のようにして、オプションのインストレーション レールを取り外します。
 - a. 各レールをラック正面に固定している2本のネジを取り外します。
 - b. レールを手前に引いて、下に降ろしてから、後ろに押して、背面のタブを外します。
 - c. レールをラックから取り外します。



注意: けがや装置の損傷を防ぐために、スーパーローダの下には、常に、オプションのインストレーション レール、またはその他の正しくインストールされたラック オプションが配置されているようにしてください。

注: オプションのインストレーション レールは、スーパーローダを取り外す場合に使用するため、安全な場所に保管しておいてください。

ラックからのスーパーローダの取り外し

スーパーローダをラックから取り外す場合は、次の点に注意してください。

- 必ず、2人以上で作業を行ってください。
- スーパーローダの下に装置がインストールされていない場合は、オプションのインストレーションレールをインストールしてください。
- スーパーローダの電源を切る前に、マガジンを取り外してください。

SCSI接続

SCSI接続により、ホスト コンピュータはスーパーローダと通信できるようになります。

注: ホスト コンピュータに、SCSIホスト アダプタ カードがすでにインストールされていなければなりません。

作業を開始する前に、ケーブルが、スーパーローダからホスト コンピュータに十分届く長さであることを確認してください。



注意: ケーブルを取り付ける際は、コネクタ上のSCSIピンを損傷しないように注意してください。ピンが損傷していると、接続障害が発生します。

SCSI接続を行うには、以下の手順に従ってください。

1. ホスト コンピュータがネットワークに接続されている場合は、電源を切る前に、システム管理者に確認します。
2. ホスト コンピュータに接続されているすべての周辺装置の電源を正しく切ります。
3. ホスト コンピュータの電源を切ります。
4. 付属の1.83mの68ピンSCSIケーブルを、DCAの背面にあるダブルスタックのSCSIコネクタに取り付けて、ネジを締めます。SCSIケーブルは、どちらのポートに取り付けることも可能です。

注: 2種類のSCSIケーブルが付属しています。ホスト コネクタに合う適切なケーブルを使用してください。

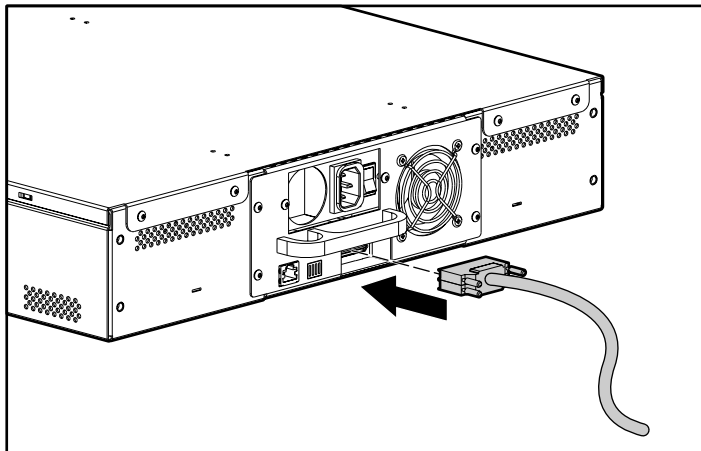


図13: ケーブルを接続する

注: ケーブルの端のコネクタはオフセットです。必ず、正しい向きで取り付けて、もう一方のポートにターミネータまたは他のケーブルを接続できるようにしてください。

5. スーパーローダがSCSIバス上の最後のデバイスである場合は、付属のSCSIターミネータをDCA上の残りのポートに取り付けて、ネジを締めます。
6. 適切なケーブルを使用して、SCSIケーブルのもう一方の端を、SCSIホストアダプタカードに接続します。
7. 手順2で電源を切った周辺装置に、電源を入れます。

注: ここではホストコンピュータの電源は入れないでください。最初にスーパーローダを設定しなければなりません。

SCSI接続を行った後は、スーパーローダの電源コードを接続して、スーパーローダの電源を入れます（この章の「電源の投入」を参照してください）。

注: デイジーチェーン接続を行わない場合は、1台目のスーパーローダにターミネータを取り付けなければなりません。

デジジー チェーン接続

スーパーローダは、他のオプションとのデジジー チェーン接続はサポートしていません。追加のスーパーローダを1台、0.092mの68ピンVHDCIコネクタ-68ピンVHDCIコネクタのケーブルを使用してデジジー チェーン接続することは可能です。その場合は、2台目のスーパーローダにターミネータを取り付けなければなりません。

Ethernet接続

RJ-45ケーブルの一方の端を、スーパーローダに接続します。もう一方の端は、10/100ハブまたはスイッチに接続します。

電源の投入

電源コードは、スーパーローダに付属しています。よく調べて、使用する国または地域向けの正しいコードであることを確認してください。付属の電源コードが正しいものでない場合は、HPのサービス窓口にご連絡ください。

電源コードを接続するには、以下の手順に従ってください。

1. スーパーローダの背面にある電源スイッチがオフになっていること(0が押されていること)を確認します。
2. 電源コードのメス型の端を、スーパーローダの背面にある電源コネクタに接続します。
3. 電源コードのオス型の端を、電源に接続します。

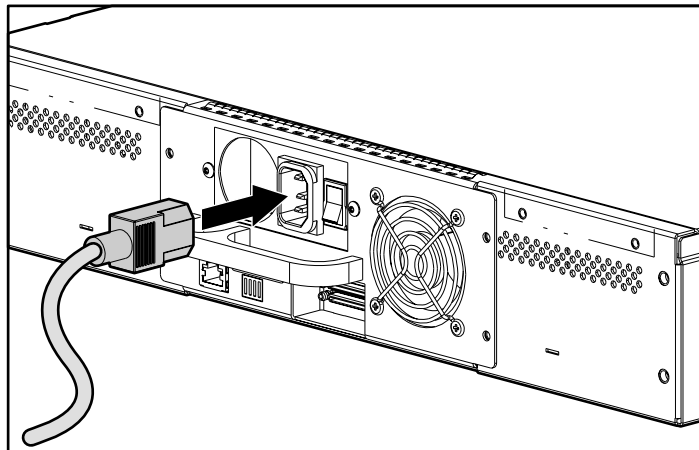


図14: 電源コードを接続する

注: スーパーローダの電源を入れる前に、ホストの電源を入れないでください (初回のみ)。

スーパーローダの電源を入れるには、以下の手順に従ってください。

1. スーパーローダの背面にある電源スイッチを押して、オンの位置 (1が押された位置) にします。

スーパーローダが電源投入時シーケンスを実行する間、待ちます。この間に、次の動作が発生します。

- 冷却ファンが動作を開始します。
- LCDが点灯して、電源投入時メッセージが表示されます。
- スーパーローダが、電源投入時セルフテスト (POST) を実行します。
- スーパーローダが、較正を実行し、マガジンのエレメント ステータスを表示します。

検査

最初にスーパーローダの電源を入れたときには、電源投入時セルフテスト (POST) が自動的に実行されます。POSTの間は、右側 (黄色) のLEDが速く点滅します。POSTの後は、左側 (緑色) のLEDが点灯したままになり、約3分後に、LCDにHPロゴが表示されます。次のどれかを実行してください。

- スーパーローダが正常に電源投入された場合は、スーパーローダの設定を引き続き実行します。「設定」を参照してください。
- スーパーローダが正常に電源投入されない場合は、次を確認します。
 - 電源スイッチがオンになっている。
 - 電源コードが正しく挿入されている。
 - SCSIバスが終端されている。
 - SCSIケーブルがスーパーローダとホスト コンピュータに接続されている。
 - ホスト コンピュータシステムの電源が入っている。
 - スーパーローダのLCDにエラー コードが表示されていない (エラー メッセージが表示されている場合は、「6 トラブルシューティング」を参照してください)。

問題が解決されない場合は、HPのサービス窓口にご連絡ください。

設定

スーパーローダで設定を行うには、フロントパネルの[Configuration]サブメニューを使用します。最初にスーパーローダの電源を入れたときには、デフォルトでパスワード保護が無効になっています。ただし、セキュリティ オプションを設定した後は、すべての設定機能がパスワード保護され、スーパーローダの設定を行うには管理者レベルのパスワードが必要になります。

[Configuration]サブメニューには、次のオプションがあります。

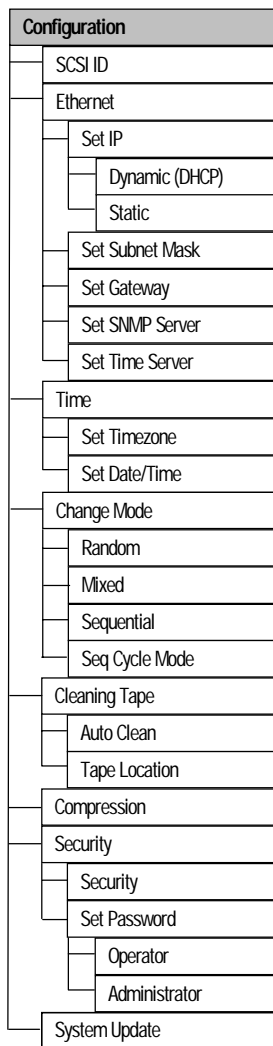


図15: [Configuration]サブメニュー

注: スーパーローダには、出荷時に、英語版のファームウェアがインストールされています。他の言語版のファームウェアをインストールするには、第4章の「ファームウェアのアップデート」を参照してください。

スーパーローダの設定を行うには、以下の設定が必要です。

- SCSI ID
- Ethernet IPアドレス (DHCPを使用していない場合)
- SNMPサーバのIPアドレス
- タイム サーバのIPアドレス(または、手動で設定する場合は、タイムゾーン、日付、および時刻)
- 制御モード
- セキュリティ オプション

SCSI ID

サーバまたはワークステーションに接続されている各SCSIデバイスは、固有のSCSI IDを持っていない限りなりません。スーパーローダには、SCSI IDを1つだけ設定する必要があります。テープドライブとスーパーローダに対して別々のSCSI IDを設定する必要はありません。スーパーローダがテープドライブを制御するため、スーパーローダのみがSCSI IDを必要とします。

SCSIバス上にある他のSCSIデバイス (SCSIホストアダプタなど) のIDを確認して、未使用のSCSI IDをスーパーローダのために選択します。スーパーローダのデフォルトのIDは5ですが、0~15の未使用の番号を任意に選択できます。出荷時のデフォルトのSCSI ID (5) がSCSIバス上の他のデバイスによって使用されていない場合、スーパーローダのSCSI IDを5以外に変更したくなければ、変更する必要はありません。

注: DCAの背面にあるSCSI IDスイッチは無視してください。スーパーローダのSCSI IDの設定には、このスイッチは使用しません。

SCSI IDを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Configuration]にスクロールします(メインメニューがLCDに表示されていない場合は、**Enter**キーを押してください)。

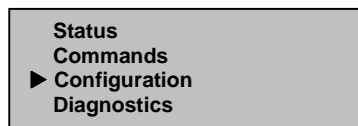


図16: メインメニュー

2. **Enter**キーを押します。

3. [Configuration]サブメニューで、[SCSI ID]にスクロールします。

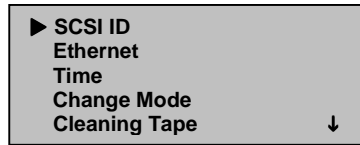


図17: [SCSCI ID]の選択

4. **Enter**キーを押します。
5. スーパーローダのSCSCI IDとして設定したい番号にスクロールします。

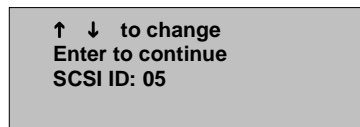


図18: SCSCI IDの設定

6. **Enter**キーを押します。
 7. 再起動して、新しいSCSCI IDがLCDに表示されるようにします。
 - a. LCDに[Power Off]と表示されるまで、フロント パネルの電源ボタンを押し続けます。
 - b. 電源ボタンをもう一度押して、スーパーローダの電源を入れます。
- 以上で、新しいSCSCI IDが有効になります。

制御モード

スーパーローダは、Sequential、Random、Mixed、またはSeq Cycleモードのどれかに設定できます。デフォルトの制御モードは、Randomです。

Sequentialモードは、メディアを管理しない特定のバックアップアプリケーションをサポートします。バックアップ中に、1本のカートリッジがテープの最後まで読み取りまたは書き込みされた場合、スーパーローダは自動的にそのカートリッジを元のスロットに戻し、次に大きな番号のスロットからカートリッジをテープドライブにロードして、読み取りまたは書き込みを実行します。これは、バックアップソフトウェアがドライブへのアクセスを停止するまで、またはカートリッジが順番にすべてアクセスされてしまうまで継続されます。

Random制御モードでは、どのカートリッジを使用し、どこにそのカートリッジを戻すかを指定できます。通常、このモードが最もよく使用されます。

Mixedモードでは、スーパーローダは、SequentialモードとRandomモードの両方の機能をサポートします。このモードは、ネットワーク環境で役に立つ場合があります。

注: Mixedモードは、すべてのアプリケーションがMixedモードの動作をサポートしていることが確実でない場合は使用しないでください。

Seq Cycleモードでは、スーパーローダは、最後のカートリッジ (スロット16、またはカートリッジが入っている最も大きい番号のスロット) が使用されたら、マガジン スロット1から再び使用を開始します。この制御モードが設定されていない場合は、使用可能な最後のカートリッジが使用されると、スーパーローダは停止します。Seq Cycleモードでは、スーパーローダは、ユーザが停止するまでサイクルを続けます。

制御モードを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Configuration]にスクロールします。

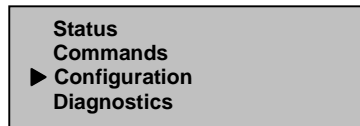


図19: メインメニュー

2. **Enter**キーを押します。
3. [Configuration]サブメニューで、[Change Mode]にスクロールします。



図20: [Change Mode]の選択

4. **Enter**キーを押します。

モード オプションが表示されます。有効になっているモードの後にチェックマークが表示されます。

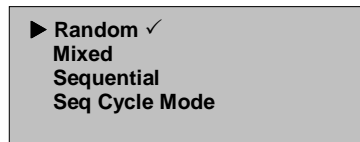


図21: モード オプション

5. 次のどちらかを実行します。
 - 制御モードを変更するには、希望するモードにスクロールして、**Enter**キーを押します。チェックマークが表示されます。**Enter**キーをもう一度押します。
 - 制御モードを変更しない場合は、**Esc**キーを押します。
 6. 再起動して、新しいモードがLCDに表示されるようにします。
 - a. LCDに[Power Off]と表示されるまで、フロントパネルの電源ボタンを押し続けます。
 - b. 電源ボタンをもう一度押して、スーパーローダの電源を入れます。
- 以上で、新しい制御モードが有効になります。

注: Sequentialモードを有効にすると、SCSIバス上にLUN 1は現れなくなります。

Sequentialモードの動作

Sequential 制御モードを有効にした場合は、再起動後のスーパーローダを、[Commands] メニューの下の[Sequential Ops]サブメニューを使用して操作しなければなりません。

- [Start]により、最初のカートリッジをロードできます。
- [Resume]により、サイクルが停止した場合に継続することができます。
- [Stop]により、サイクルを停止します。

Sequentialモードの動作を開始するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Commands]にスクロールします。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Commands]サブメニューで、[Sequential Ops]にスクロールします。
4. **Enter**キーを押します。
5. [Sequential Ops]サブメニューで、[Start]にスクロールします。
6. **Enter**キーを押します。[Moving first tape to drive]と表示されます。

Sequentialモードの動作を停止するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Commands]にスクロールします。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Commands]サブメニューで、[Sequential Ops]にスクロールします。

4. **Enter**キーを押します。
5. [Sequential Ops]サブメニューで、[Stop Cart]にスクロールします。
6. **Enter**キーを押します。[Ejecting tape from drive]と表示されます。
Sequentialモードの動作を再開するには、以下の手順に従ってください。
 1. メインメニューで、[Commands]にスクロールします。
 2. **Enter**キーを押します。
 3. [Commands]サブメニューで、[Sequential Ops]にスクロールします。
 4. **Enter**キーを押します。
 5. [Sequential Ops]サブメニューで、[Resume]にスクロールします。
 6. **Enter**キーを押します。

Ethernet

Ethernetは、スーパーローダがネットワークへのアクセスに使用する方法です。Ethernet接続を使用することにより、スーパーローダが接続されているネットワークを介して、スーパーローダにリモートアクセスすることができます。Ethernet接続を使用するには、以下の定義が必要です。

- スーパーローダの動的または静的IPアドレス
- サブネットマスク
- IPゲートウェイ
- SNMP (Simple Network Management Protocol) サーバ
- SNTP (Simple Network Time Protocol) タイムサーバ (または手動で時刻およびタイムゾーンを設定)

スーパーローダのIPアドレス

IP (Internet Protocol) アドレスは、ネットワークに接続されている任意のデバイスのアドレスです。各デバイスは、固有のIPアドレスを持っていないければなりません。IPアドレスは、0.0.0.0 ~ 255.255.255.255の範囲の、ピリオドで区切られた4組の数によって表されます。

IPアドレスは、静的または動的に割り当てられます。静的アドレスは、デバイスがネットワークに接続されるたびに变化せず、同じままになります。動的アドレスは、デバイスがネットワークに接続されるたびに変更され、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) と呼ばれるソフトウェアのクラスを使用してネットワークサーバによって割り当てられます。

最初にスーパーローダの電源を入れたときには、IPアドレスを設定するためのデフォルトの方式は「動的」(DHCP)になっています。DHCPを使用する場合は、以下の手順を省略できます。DHCPを使用している場合にIPアドレスを調べるには、Ethernetステータス情報を表示してください(「Ethernet情報の表示」を参照してください)。

動的IPアドレスを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Configuration]にスクロールします。



図22: メインメニュー

2. **Enter**キーを押します。
3. [Configuration]サブメニューで、[Ethernet]にスクロールします。

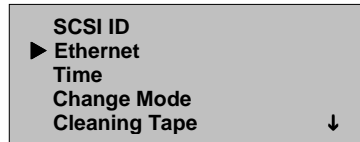


図23: [Ethernet]の選択

4. **Enter**キーを押します。
5. [Ethernet]サブメニューで、[Set IP]にスクロールします。

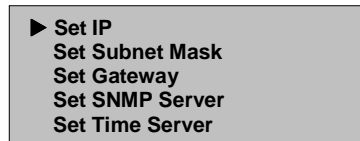


図24: [Set IP]

6. **Enter**キーを押します。

7. [Dynamic] (DHCP) にスクロールします。

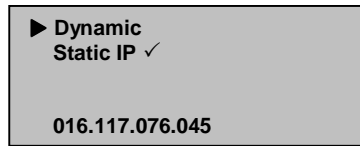


図25: 動的IPの設定

8. **Enter**キーを押します。
9. 再起動して、IPアドレスが変更されるようにします。
 - a. LCDに[Power Off]と表示されるまで、フロントパネルの電源ボタンを押し続けます。
 - b. 電源ボタンをもう一度押して、スーパーローダの電源を入れます。

以上で、IPアドレスが変更されます。

静的IPアドレスを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Configuration]にスクロールします (図22を参照)。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Configuration]サブメニューで、[Ethernet]にスクロールします (図23を参照)。
4. **Enter**キーを押します。
5. [Ethernet]サブメニューで、[Set IP]にスクロールします (図24を参照)。
6. **Enter**キーを押します。
7. [Static IP]にスクロールします (図25を参照)。
8. **Enter**キーを押します。
9. IPアドレスの各位置で、正しい数にスクロールし、**Enter**キーを押してカーソルを進めます。

注: 必要に応じて、**Esc**キーを使用することにより、前のテキストボックスにカーソルを戻すことができます。

IPアドレスの設定が完了したら、[Enter to save]と表示されます。

10. **Enter**キーを押します。

[Configuration]サブメニューが再び表示され、静的IPが有効になります。スーパーローダを再起動する必要はありません。

11. **Esc**または**Enter**キーを押して、[Ethernet]サブメニューに戻ります。

サブネット マスク

サブネットマスクの作成は、IPネットワークを一連のサブグループ、つまりサブネットに分割して、性能とセキュリティを向上させるための手段です。

サブネットマスクを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Configuration]にスクロールします（図22を参照）。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Configuration]サブメニューで、[Ethernet]にスクロールします（図23を参照）。
4. **Enter**キーを押します。
5. [Ethernet]サブメニューで、[Set Subnet Mask]にスクロールします（図24を参照）。
6. **Enter**キーを押します。
7. マスクアドレスの各位置で、正しい数にスクロールし、**Enter**キーを押してカーソルを進めます。

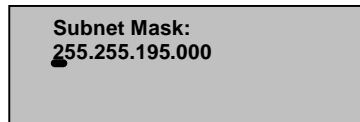


図26: サブネットマスクの設定

注: 必要に応じて、**Esc**キーを使用することにより、前のテキストボックスにカーソルを戻すことができます。

マスクの設定が完了したら、[Enter to save]と表示されます。

8. **Enter**キーを押します。

LCDに[SUB addr changed to]と表示されます。スーパーローダを再起動する必要はありません。

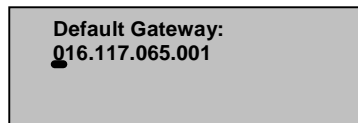
9. **Esc**または**Enter**キーを押して、[Ethernet]サブメニューに戻ります。

IPゲートウェイ

IPゲートウェイは、データをIPプロトコルに変換するデバイスです。

IPゲートウェイを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Configuration]にスクロールします（図22を参照）。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Configuration]サブメニューで、[Ethernet]にスクロールします（図23を参照）。
4. **Enter**キーを押します。
5. [Ethernet]サブメニューで、[Set Gateway]にスクロールします（図24を参照）。
6. **Enter**キーを押します。
7. ゲートウェイアドレスの各位置で、正しい数にスクロールし、**Enter**キーを押してカーソルを進めます。



```
Default Gateway:
016.117.065.001
```

図27: ゲートウェイ アドレスの設定

注: 必要に応じて、**Esc**キーを使用することにより、前のテキストボックスにカーソルを戻すことができます。

ゲートウェイアドレスの設定が完了したら、[Enter to save]と表示されます。

8. **Enter**キーを押します。
ディスプレイに[GW changed]と表示されます。スーパーローダを再起動する必要はありません。
9. **Esc**または**Enter**キーを押して、メニューに戻ります。

SNMPサーバ

SNMPサーバは、各ネットワークデバイス（ハブ、ルータ、ブリッジなど）のレポート動作を処理することによって、ネットワークを監視します。サーバは、この情報を使用して、各デバイスから何が得られ、何を制御できるか（電源投入、電源切断など）を判定します。

SNMPサーバを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Configuration]にスクロールします（図22を参照）。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Configuration]サブメニューで、[Ethernet]にスクロールします（図23を参照）。
4. **Enter**キーを押します。
5. [Ethernet]サブメニューで、[Set SNMP Server]にスクロールします（図24を参照）。
6. **Enter**キーを押します。
7. サーバアドレスの各位置で、正しい数にスクロールし、**Enter**キーを押してカーソルを進めます。

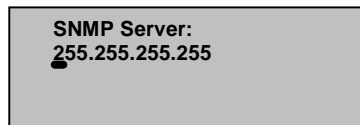


図28: SNMPサーバアドレスの設定

注: 必要に応じて、**Esc**キーを使用することにより、前のテキストボックスにカーソルを戻すことができます。

サーバアドレスの設定が完了したら、[Enter to save]と表示されます。

8. **Enter**キーを押します。
LCDに[SNMP Server changed to]と表示されます。スーパーローダを再起動する必要はありません。
9. **Esc**または**Enter**キーを押して、[Ethernet]サブメニューに戻ります。

タイムサーバ

SNTP（Simple Network Time Protocol）を使用して正しい日付および時刻を提供するサーバに、スーパーローダを接続できます。スーパーローダは、メモリ内の情報にタイムスタンプを設定したり自動クリーニングを開始したりするためにこの情報を使用します。

タイムサーバを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Configuration]にスクロールします（図22を参照）。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Configuration]サブメニューで、[Ethernet]にスクロールします（図23を参照）。
4. **Enter**キーを押します。

5. [Ethernet]サブメニューで、[Set Time Server]にスクロールします（図24を参照）。
6. **Enter**キーを押します。
7. サーバアドレスの各位置で、正しい数にスクロールし、**Enter**キーを押してカーソルを進めます。

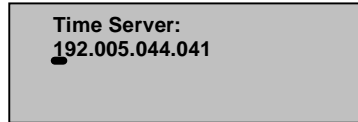


図29: タイム サーバ アドレスの設定

注: 必要に応じて、**Esc**キーを使用することにより、前のテキスト ボックスにカーソルを戻すことができます。

- サーバアドレスの設定が完了したら、[Enter to save]と表示されます。
8. **Enter**キーを押します。
パネル ディスプレイに[Time Server changed to]と表示されます。スーパーローダを再起動する必要はありません。
 9. **Esc**または**Enter**キーを押して、[Ethernet]サブメニューに戻ります。

時刻

サーバがSNTPをサポートしていないために、またはセキュリティ上の理由により、タイムサーバにアクセスできない場合は、手動で時刻を設定できます。サマー タイムなどの時刻変更を含めたい場合も、それらの変更を手動で行う必要があります。

タイムゾーンを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メイン メニューで、[Configuration]にスクロールします。

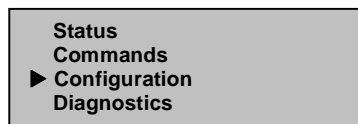


図30: メイン メニュー

2. **Enter**キーを押します。

3. [Configuration]サブメニューで、[Time]にスクロールします。

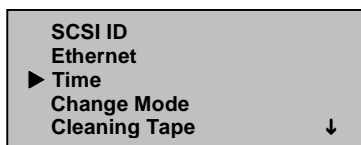


図31: [Time]の選択

4. **Enter**キーを押します。
5. [Time]サブメニューで、[Set Timezone]にスクロールします。

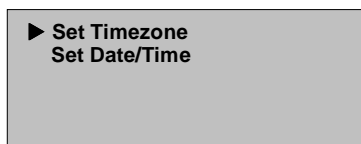


図32: [Set Timezone]の選択

6. **Enter**キーを押します。
[Timezone]画面が表示されます。

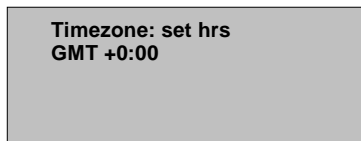


図33: [Timezone]画面

7. 現地時刻とグリニッジ標準時 (GMT) の時差の「時間」の桁をスクロールして設定します。
8. **Enter**キーを押します。
新しい[Timezone]画面が表示されます。

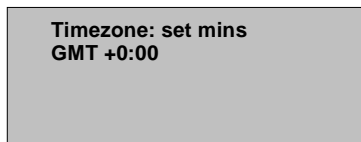


図34: 新しい[Timezone]画面

9. 現地時刻とグリニッジ標準時(GMT)の時差の「分」の桁をスクロールして設定します。
10. **Enter**キーを押します。

新しいタイムゾーンが設定されます。

日付および時刻を設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Configuration]にスクロールします(図30を参照)。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Configuration]サブメニューで、[Time]にスクロールします(図31を参照)。
4. **Enter**キーを押します。
5. [Time]サブメニューで、[Set Date/Time]にスクロールします。

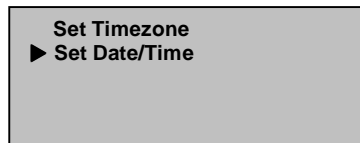


図35: [Set Date/Time]の選択

6. **Enter**キーを押します。
- 日付/時刻設定画面が表示され、カーソルが第2行目の最初の桁の下に表示されます。

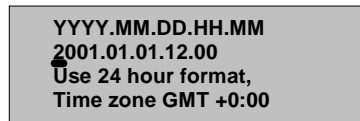


図36: 日付/時刻設定画面

7. 最初の4桁は現在の年を表します。各桁について、正しい数にスクロールし、**Enter**キーを押してカーソルを進めます。

注: 必要に応じて、**Esc**キーを使用することにより、前のテキストボックスにカーソルを戻すことができます。

8. 次の2桁は、現在の月を表します。各桁について、正しい数にスクロールし、**Enter**キーを押してカーソルを進めます。

9. 次の2桁は、現在の日を表します。各桁について、正しい数にスクロールし、**Enter**キーを押してカーソルを進めます。
10. 次の2桁は、現在の時を表します。各桁について、正しい数にスクロールし、**Enter**キーを押してカーソルを進めます。
11. 最後の2桁は、現在の分を表します。各桁について、正しい数にスクロールし、**Enter**キーを押してカーソルを進めます。
LCDに[Enter to save]と表示されます。
12. **Enter**キーを押します。

セキュリティ

スーパーローダには、スーパーローダの機能をパスワード保護するためのセキュリティ オプションが含まれています。デフォルトでは、セキュリティ設定はオフになっているため、パスワードは必要ありません。セキュリティ オプションを有効にすると、ユーザは、パスワードを入力しなければ機能にアクセスできなくなります。

セキュリティの設定

最初にスーパーローダの電源を入れたときには、セキュリティ オプションはオフに設定されています。セキュリティ オプションを有効にするには、以下の手順を使用してください。パスワードを設定するには、管理者レベルのパスワードを持っていないければなりません。

セキュリティ オプションを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メイン メニューで、[Configuration]にスクロールします。

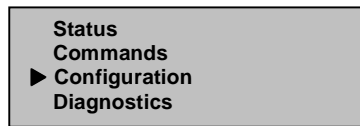


図37: メイン メニュー

2. **Enter**キーを押します。
3. [Configuration]サブメニューで、[Security]にスクロールします。



図38: [Security]の選択

4. **Enter**キーを押します。
5. [Security]サブメニューで、[Security]にスクロールします。[Security]の後にチェックマークが表示されている場合、セキュリティ オプションはオンになっています。チェックマークが表示されていない場合は、セキュリティ オプションはオフになっています。



図39: [Security]オプション

6. 設定を変更するには、**Enter**キーを押します。
これによってセキュリティ オプションの設定が切り替わります。たとえば、セキュリティ オプションがオンに設定されていた場合は、オフに設定され、チェックマークが消えます。

パスワードの設定

データの完全性を保証するために、スーパーローダの多くの動作をパスワード保護することができます。パスワードは、管理者レベルとオペレータレベルで設定できます。オペレータレベルのユーザは、[Commands]および[Status]メニューにアクセスできます。管理者レベルのユーザは、すべての機能にアクセスできます。

パスワードは6桁の数字でなければなりません。デフォルトのパスワードは000000です。

パスワードを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Configuration]にスクロールします（図37を参照）。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Configuration]サブメニューで、[Security]にスクロールします（図38を参照）。
4. **Enter**キーを押します。
5. [Security]サブメニューで、[Set Password]にスクロールします。

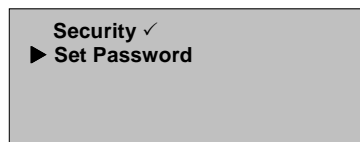


図40: [Set Password]の選択

6. **Enter**キーを押します。

7. オペレータレベルのパスワードを設定するには、[Operator]にスクロールします。管理者レベルのパスワードを設定するには、[Administrator]にスクロールします。

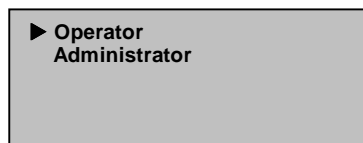


図41: パスワードレベルの選択

8. **Enter**キーを押します。
パスワード設定画面が表示されます。

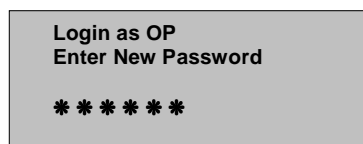


図42: パスワード設定画面

9. **Enter**キーをもう一度押します。
最初のアスタリスクの上に、テキストボックスが表示されます。
10. テキストボックス内で、パスワードの最初の数にスクロールします。
11. **Enter**キーを押します。
アスタリスクの上のテキストボックスが消えて、次のアスタリスクの上に別のテキストボックスが表示されます。
12. 手順10および11を繰り返して、パスワードの残りの数を入力します。

注: 必要に応じて、**Esc**キーを使用することにより、前のテキストボックスにカーソルを戻すことができます。

6つの数の設定が完了したら、アスタリスクの下に[Submit Password]と表示されます。

13. **Enter**キーを押して、パスワードを更新します。
LCDに、[Password Successfully Changed]と表示されます。
14. **Enter**キーを押します。
[Operator]および[Administrator]オプションが再び表示されます。他のパスワードを入力することも、**Esc**キーまたは**Enter**キーを押してメインメニューに戻ることもできます。

パスワードを忘れた場合

管理者レベルのパスワードを忘れた場合、新しいパスワードを入力することはできません。HPのサービス窓口にご連絡してください。

テープカートリッジの使用方法

3

この章では、磁気テープについて、また磁気テープの正しい取り扱いについて説明します。

テープカートリッジの定義

1/16テープスーパーローダは、DLTtape IVテープを使用します。

DLTtape IVカートリッジには、カートリッジ当たり最大40GB（非圧縮）のストレージ容量を提供するDLTテープが含まれています。テープカートリッジシエルは、チャコールグレーで、模様は付いていません。

注: DLT1テープドライブは、他のカートリッジタイプ、および認識されていないフォーマットを持つカートリッジをすべて自動的にアンロードします。

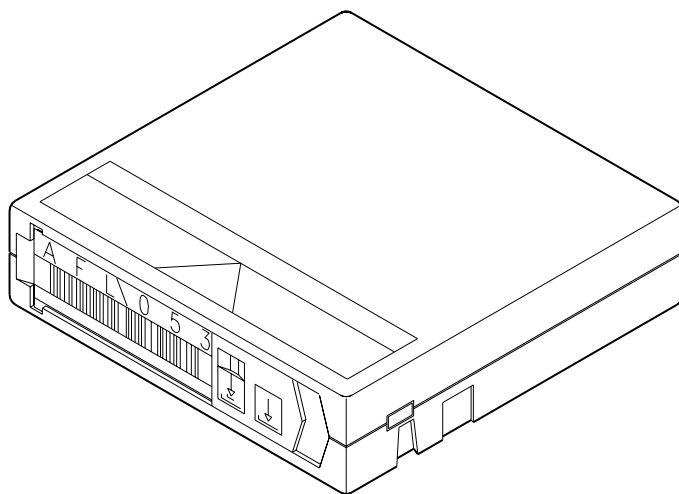


図43: DLTtape IVカートリッジ

テープカートリッジのメンテナンス

以下のガイドラインに従うことによって、テープカートリッジの問題やテープドライブの損傷が発生する可能性を大幅に減らすことができます。

テープカートリッジの検査

テープの検査は、テープカートリッジの潜在的な問題を特定し、故障によるデータの消失やDLTテープの損傷を防ぐために実行します。テープの検査は、次の場合に実行してください。

- テープカートリッジを新しく変更した場合、またはロードした場合
- テープカートリッジを落とした場合、またはテープカートリッジに物理的な衝撃を加えた場合
- テープカートリッジをロードした後でテープドライブが動作不能になった場合
- 輸送時に損傷した形跡のあるテープカートリッジの出荷箱を受け取った場合

テープを検査するには、以下の手順に従ってください。

1. テープカートリッジを、保護用のプラスチックケースから取り出します。
2. テープカートリッジに、明らかなひび割れやその他の物理的損傷がないか確認します。壊れた部品や欠落している部品がないか調べます。
3. テープカートリッジをゆっくりと振ります。カートリッジ内で、壊れた部品や外れかけた部品の音がしないか確認します。
4. 音がする場合は、カートリッジを使用しないでください。
5. テープカートリッジを、テープドライブに挿入する側を手前にして持ちます。テープカートリッジの左側に、小さなプラスチックのタブがあります。これは左リールロックで、カートリッジを落とすと壊れる場合があります。タブが見当たらない場合は、カートリッジを使用しないでください。
6. テープカートリッジの下部を調べます。右下隅に下部リールロックがあり、これはカートリッジを落とすと壊れる場合があります。タブが見当たらない場合は、カートリッジを使用しないでください。

注: DLTapeカートリッジのリールロックは白色で、容易に見つけることができます。

7. テープカートリッジの書き込み禁止スイッチが正しく動作するか確認します。このスライド式スイッチは、テープカートリッジの端にあり、前後にカチッと留まります。テープカートリッジが書き込み禁止に設定されている場合は、オレンジ色のインジケータが見えます。

テープカートリッジの保護

テープカートリッジの寿命を延ばすには、以下のガイドラインに従ってください。

- テープカートリッジの外側についたほこりを、湿らせた布で取り除きます。
- 粘着ラベルやポストイットを、テープカートリッジの上面、側面、または底面に貼り付けしないでください。各カートリッジに付属のラベルだけを、カートリッジのラベルスロットに挿入して使用してください。
- グラファイト鉛筆、水性フェルトペン、またはその他のゴミを発生させる筆記具を、ラベルに使用しないでください。
- ラベルは、消さずに、必ず取り換えてください。
- 未使用のカートリッジラベルは、離れた場所に置いてください。カートリッジの静電気によってラベルがカートリッジにくっつく場合があります。間違えて、カートリッジと一緒にラベルをドライブに挿入した場合、ハブリールとドライブギアがかみ合うのをラベルが妨げることがあります。
- テープやテープリーダーには、直接触れないでください。ほこりや皮膚の脂によってテープが汚れて、テープの性能に影響することがあります。
- テープカートリッジは、湿気や直射日光を避けてください。
- カートリッジを極端な温度や湿度にさらさないでください。動作時および保管時の適切な温度については、テープメディアに付属のマニュアルを参照してください。
- テープカートリッジを磁界にさらさないでください。
- 必要なとき以外は、カートリッジのドアを開けないでください。テープが汚れたり損傷したりする原因になります。
- テープカートリッジを落としたり、テープカートリッジに物理的な衝撃を加えたりしないでください。
- 落としたカートリッジは、損傷がないか注意深く調べていない場合は、テープドライブに挿入しないでください。落としたカートリッジは、内部部品が外れたり、緩んだり、損傷したりしている可能性があるため、テープドライブが故障する恐れがあります。
- カートリッジを分解しないでください。
- スーパーローダの電源を切る場合は、テープドライブにカートリッジを入れたままにしないでください。

テープカートリッジの輸送

テープカートリッジを安全に輸送するには、以下のガイドラインに従ってください。

- 各テープカートリッジは、テープドライブに入っていない場合は、必ず保護用のプラスチックケースに入れておいてください。
- テープカートリッジをケースに入れて運ぶ場合は、必ず、ケースの向きを整えてケースの溝がかみ合うようにしてください。これにより、ケースが別々に滑り落ちることがなくなります。
- 箱やその他の入れ物の中にカートリッジをまばらに入れて運ばないでください。カートリッジが互いにぶつかり合うと、不要な物理的衝撃が加えられます。

テープカートリッジの保管

テープカートリッジを正しく保管するには、以下のガイドラインに従ってください。

- 5本以上のテープカートリッジを積み重ねないでください。
- 長期保管場所にテープカートリッジを置く場合は、必ず、各テープカートリッジを垂直に立ててください。
- テープカートリッジは、プラスチックのケースに入れて、テープメディアのマニュアルで推奨されている環境条件で保管してください。
- テープカートリッジの保管や輸送が、推奨されている環境条件以外で行われた場合は、24時間、テープカートリッジを動作環境に「慣らして」ください。
- カートリッジは、コンピュータのモニタ、モーター、ビデオ装置など、磁界を発生する装置に近づけないでください。テープのデータが変化または消失することがあります。

書き込み禁止スイッチの使用

すべてのテープカートリッジには、データが誤って消去されることを防止するための書き込み禁止スイッチが付いています。書き込み禁止を有効にすると、テープ上の既存のデータは上書きできなくなり、テープに新たにデータを追加することもできなくなります。書き込み禁止を無効にすると、テープ上の既存のデータは上書きできるようになり、新たにデータを追加することもできるようになります。

注: スーパーローダにカートリッジをロードする前に、書き込み禁止スイッチが希望の位置に設定されていることを確認してください。

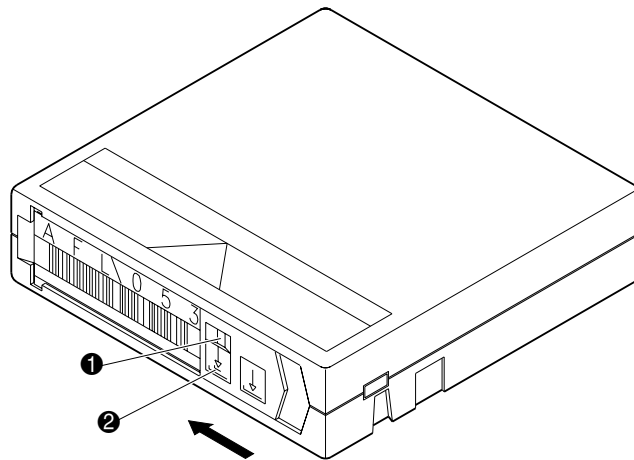


図44: 書き込み禁止スイッチ

- ① 書き込み禁止（オレンジ色のインジケータがスイッチの上に現れます）
- ② 書き込み可能

表2: 書き込み禁止スイッチの位置

書き込み禁止スイッチの位置	オレンジ色のインジケータ	状態
書き込み禁止(図44に示すように、ハブを下にして、書き込み禁止スイッチを手前にした状態で、スイッチを左にスライドさせる)	見える	<ul style="list-style-type: none"> ■ データをテープに書き込むことはできない ■ テープ上の既存のデータは上書きできない ■ テープにデータを追加できない
書き込み可能(図44に示すように、ハブを下にして、書き込み禁止スイッチを手前にした状態で、スイッチを右にスライドさせる)	見えない	<p>カートリッジがソフトウェアによって書き込み禁止にされていない場合、</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ データをテープに書き込むことができる ■ テープ上の既存のデータを上書きできる ■ テープにデータを追加できる



スーパーローダの操作

4

スーパーローダは、次のどの方法でも操作できます。

- スーパーローダのフロントパネル - 手動操作により、テープの出し入れと、マガジンのアンロードを行います。
- Ethernet Web Administration - Ethernet接続により、Web Administrationを使用してリモートで管理機能を実行できます。また、Ethernet接続を介してスーパーローダ内でテープを移動させることもできます。
- ホストバックアップソフトウェア - SCSIバスは、スーパーローダを、ホストサーバおよびバックアップソフトウェアに接続します。バックアップソフトウェアに含まれている任意の機能を実行できます。

フロントパネルの各部

フロントパネルには、青色のバックライト式液晶ディスプレイ(LCD)、4つのファンクションキー (△スクロールアップ、▽スクロールダウン、 Enter、 Esc)、および2つのLEDがあります。

ファンクションキー

ファンクションキーを使用して、メニューの中を移動し、オプションを選択します。上向きおよび下向きのスクロールボタンを使用して、希望するオプションの横にカーソルを置きます。カーソルを所定の位置に合わせたら、**Enter**キーを押してオプションを選択します。選択せずに前のメニューに戻るには、**Esc**キーを押します。**Esc**ボタンは、バックスペースキーとして使用することもできます。

LED

LEDは、スーパーローダおよびドライブのステータス情報を示します。スーパーローダの電源が入っている場合、左側の緑色のLEDはレディ ステータス情報を示し、右側の黄色のLEDは障害ステータス情報を示します。

表3: インジケータの表示

インジケータ	状態	動作状況
左 (緑色)	点灯 ゆっくりと点滅 速く点滅	スーパーローダとテープドライブはアイドル状態 テープドライブのみアクティブ スーパーローダのみアクティブ、またはスーパーローダとテープドライブがアクティブ
右 (黄色)	点灯 消灯 継続して点滅 短時間の点滅	エラーや問題は検出されていない テープドライブまたはスーパーローダのエラーが検出された ハードウェア以外のエラーが検出された (たとえば、クリーニングが必要な場合) POSTの実行中

LCD

LCDは、情報へのアクセスやコマンドの実行を可能にするスクロールメニューを表示します。

注: スーパーローダが60秒以上アイドル状態になっている場合、PCのスクリーンセーバ機能と同様に、LCDにロゴ画面が表示されます。いずれかのファンクションキーを押すと、トップレベルメニューが表示されます。

LCDに表示される4つのメニューは、循環メニューです。上向きまたは下向きのスクロールボタンを使用して、オプション全体をスクロールできます。フロントパネルでアクセスする最初のメニューには、トップレベルメニュー オプションが含まれています。各オプションには、サブメニューが含まれています。

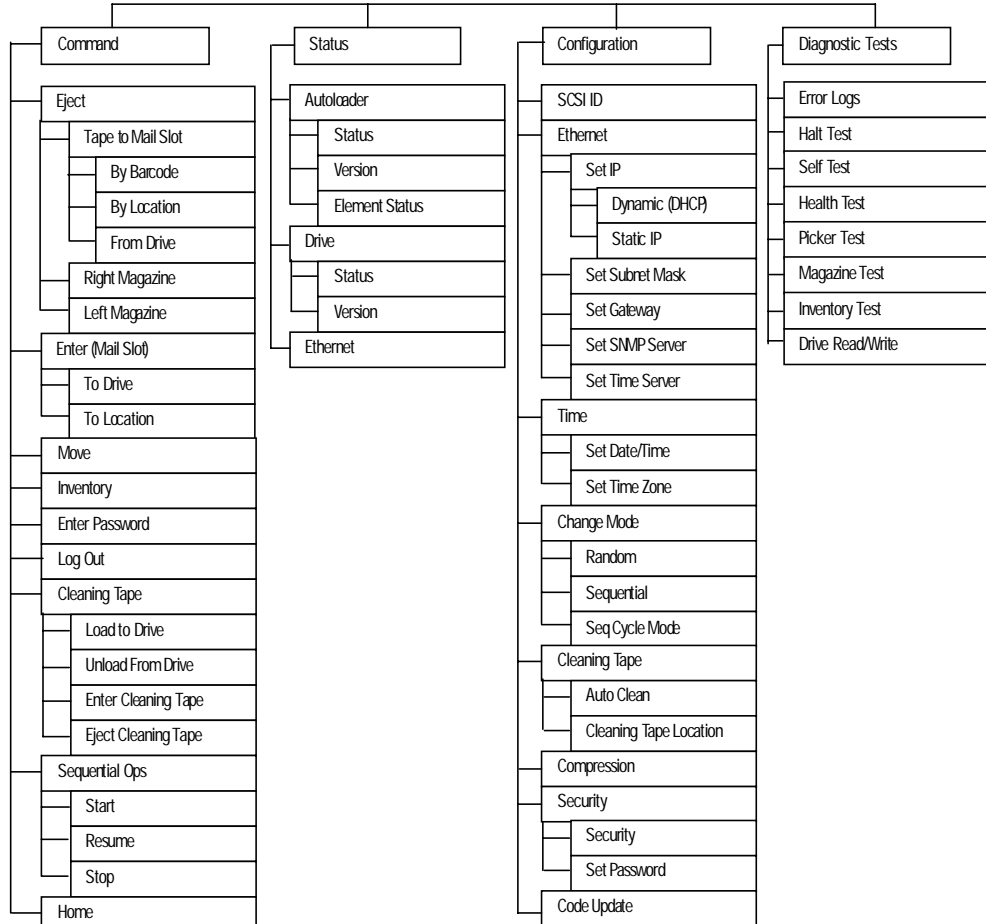


図45: メニュー ツリーの構造

スクロールメニューからアクセスされるすべての機能は、パスワード保護されます。2レベルのセキュリティがメニューに組み込まれています。低レベルのセキュリティはオペレータレベルで、高レベルのセキュリティは管理者レベルです。各レベルについて、1つのパスワードがあります。

管理者パスワードでは、使用可能なすべての機能にアクセスできます。オペレータパスワードでは、[Command]および[Status]サブメニューのすべての機能にアクセスできます。

フロント パネルの機能

ほとんどの機能を、フロントパネルからでもEthernet接続を介したWeb Administrationツールからでも使用することができます。

パスワードの設定

スーパーローダの多くの機能は、データの完全性を保証するために、パスワード保護することができます。これらの機能を実行するために必要なメニュー オプションにアクセスするには、最初にパスワードを入力しなければなりません。パスワードはすべて、6桁の数字です。

パスワードを設定するには、第2章の「パスワードの設定」を参照してください。

パスワードを入力した後は、ログアウトするまで、すべてのパスワード保護された機能を使用できます。一定時間フロント パネルを使用しないと、LCDにロゴが表示されます。ロゴが表示された場合、スーパーローダは自動的にユーザをログアウトしています。メニュー機能にアクセスするには、パスワードを再び入力しなければなりません。

デフォルトのフロント パネル パスワード

フロントパネルのデフォルトのパスワードは000000です。

ログアウト

ログアウトするには、以下の手順に従ってください。

1. メイン メニューで、[Command]にスクロールします。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Command]サブメニューで、[Log Out]にスクロールします。
4. **Enter**キーを押します。

LCDに[Session Complete]と表示されます。

データ カートリッジの使用

通常、最初にスーパーローダをインストールする際に、カートリッジをマガジンにロードし、マガジンを超ローダにロードします。ただし、メール スロットを使用してカートリッジを個々に出し入れしたり、マガジンを出して手でカートリッジをロード/アンロードしてからマガジンを超ローダに戻したりすることもできます。スーパーローダは、自動的に、メール スロット内およびマガジン スロット内のカートリッジを検出します。

注: フロント パネル メニューに表示される[Enter]と[Eject]は、メール スロットを通してテープを超ローダに入れることと取り出すことを意味しています。[Load]と[Unload]は、テープをテープドライブにロードすることとテープドライブからアンロードすることを意味しています。

間違った操作をしようとする、スーパーローダは、その操作の実行を拒否します。たとえば、メール スロットを介してカートリッジをドライブにロードしようとしたときにドライブにすでにカートリッジが入っていると、メール スロットのロックが解除されません。また、スーパーローダがテープにデータを書き込んでいるときにドライブからカートリッジをアンロードしようとする、ユーザのコマンドは無視されます。

1本のカートリッジの挿入

1本のカートリッジを超ローダにロードするには、メール スロットを使用します。有効なパスワードを入力してメール スロットのロックを解除しないと、カートリッジをロードすることはできません。メール スロットを介して挿入したカートリッジは、テープドライブにロードすることも、マガジンに格納することもできます。

カートリッジをテープドライブに挿入するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Command]にスクロールします。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Command]サブメニューで、[Enter]にスクロールします。
4. **Enter**キーを押します。
5. [Enter]サブメニューで、[To Drive]にスクロールします。
6. **Enter**キーを押します。

LCDに[Load cartridge]と表示された後、カウントダウンが表示されます。メール スロットを介してカートリッジをロードするための20秒間が経過した後、メール スロットは再びロックされます。スーパーローダは、自動的に、テープドライブにカートリッジをロードします。

注: カートリッジを挿入する際は、無理なく入るところまで入れてください。

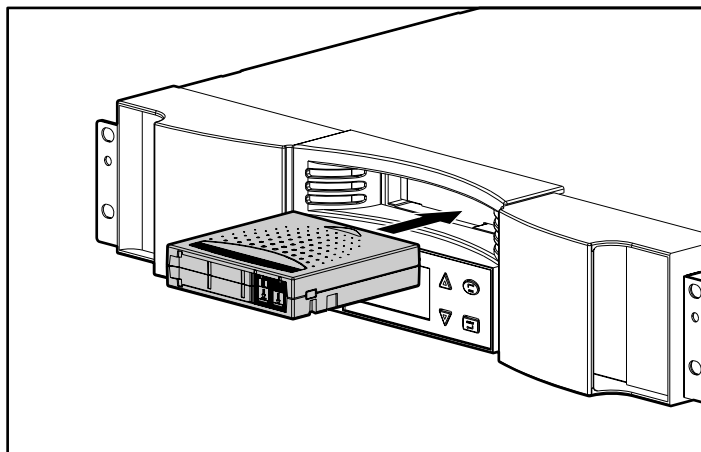


図46: カートリッジをメール スロットにロードする

カートリッジをマガジン スロットに挿入するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Command]にスクロールします。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Command]サブメニューで、[Enter]にスクロールします。
4. **Enter**キーを押します。
5. [Enter]サブメニューで、[To Location]にスクロールします。
6. **Enter**キーを押します。

すべてのマガジン スロットのマップが表示されます。使用されているスロットは、アスタリスクによって示されます。

7. カートリッジを格納したいスロットにスクロールします。
8. **Enter**キーを押します。

LCDに[Load cartridge]と表示された後、カウントダウンが表示されます。メール スロットを介してカートリッジをロードするための20秒間が経過した後、メール スロットは再びロックされます。スーパーローダは、自動的に、選択したスロットにカートリッジをロードします。

1本のカートリッジの移動

1本のカートリッジを、スーパーローダ内の1つの位置から別の位置に移動するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Command]にスクロールします。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Command]サブメニューで、[Move]にスクロールします。
4. **Enter**キーを押します。
[Move]画面が表示されます。
5. [From:]の下で、移動したいカートリッジの現在の位置にスクロールします。使用されているスロットは、アスタリスクによって示されます。

注: 空いているスロットを選択すると、LCDに[Task: Picker SRVO No src mag]と表示されます。別の位置を選択してください。

6. **Enter**キーを押します。
7. [To:]の下で、カートリッジを移動させたい位置にスクロールします。使用されているスロットは、アスタリスクによって示されます。

注: すでに使用されているスロットを選択すると、LCDに[Task: Picker SRVO Dest Full]と表示されます。別の位置を選択してください。

8. **Enter**キーを押します。
LCDの選択表示の下に、[Ent or Esc?]と表示されます。
9. **Enter**キーを押します。
SuperLoaderがカートリッジを新しい位置に移動している間、LCDに砂時計が表示されます。

1本のカートリッジの取り出し

スーパーローダからの1本のカートリッジの取り出しは、希望するカートリッジをバーコードまたは位置で指定することによって、または現在テープドライブの中にあるカートリッジを選択することによって実行できます。

バーコードによってカートリッジを取り出すには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Command]にスクロールします。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Command]サブメニューで、[Eject]にスクロールします。
4. **Enter**キーを押します。
5. [Eject]サブメニューで、[Cartridge]にスクロールします。
6. **Enter**キーを押します。
7. [By Barcode]にスクロールします。
バーコードラベルが表示されます。
8. アンロードしたいカートリッジに対応するラベルにスクロールします。
9. **Enter**キーを押します。

希望するカートリッジがメールスロットから排出される間、LCDに砂時計が表示されます。LCDから砂時計が消えるのを待ってから、カートリッジを引き抜いてください。

位置によってカートリッジを取り出すには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Command]にスクロールします。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Command]サブメニューで、[Eject]にスクロールします。
4. **Enter**キーを押します。
5. [Eject]サブメニューで、[Cartridge]にスクロールします。
6. **Enter**キーを押します。
7. [By Location]にスクロールします。
すべてのマガジンスロットのマップが表示されます。使用されているスロットは、アスタリスクによって示されます。
8. 取り出したいカートリッジを含むスロットにスクロールします。
9. **Enter**キーを押します。

希望するカートリッジがメール スロットから排出される間、LCDに砂時計が表示されます。LCDから砂時計が消えるのを待ってから、カートリッジを引き抜いてください。

テープドライブからカートリッジを取り出すには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Command]にスクロールします。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Command]サブメニューで、[Eject]にスクロールします。
4. **Enter**キーを押します。
5. [Eject]サブメニューで、[Cartridge]にスクロールします。
6. **Enter**キーを押します。
7. [From Drive]にスクロールします。
8. **Enter**キーを押します。

希望するカートリッジがメール スロットから排出される間、LCDに砂時計が表示されます。LCDから砂時計が消えるのを待ってから、カートリッジを引き抜いてください。

注: 1本のカートリッジが排出された後、指示されたらただちにそのカートリッジをメール スロットから取り出してください。

マガジン ブランクおよびマガジンの使用

スーパーローダには、1つのマガジンと1つのマガジン ブランクが標準装備されています。マガジンを取り外した場合は、必ず、マガジン ブランクをインストールしてください。

マガジン ブランクの取り外し

マガジン ブランクを取り外すには、ハンドルを引いて、スライドさせて取り出してください。

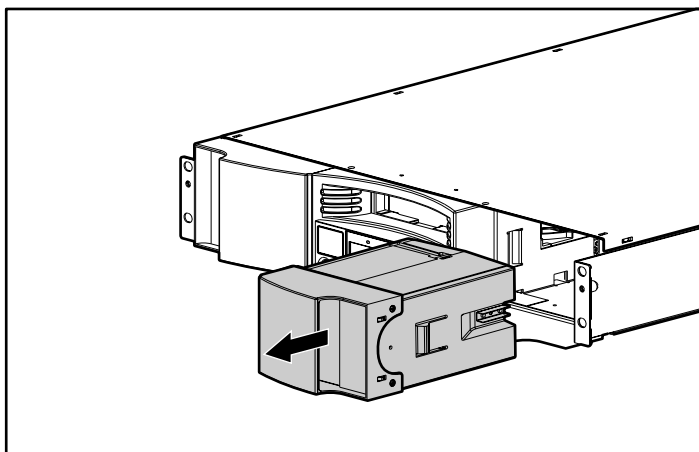


図47: マガジン ブランクを取り外す

マガジンのアンロード

複数のカートリッジを一度に取り出したい場合は、最初にマガジンをアンロードしてください。

マガジンをアンロードするには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Command]にスクロールします。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Command]サブメニューで、[Eject]にスクロールします。
4. **Enter**キーを押します。
5. [Eject]サブメニューで、[Right Magazine]または[Left Magazine]にスクロールします。
6. **Enter**キーを押します。

スーパーローダからマガジンが排出される際には、特有の機械音が聞こえます。LCDに、[Left magazine has been ejected]または[Right magazine has been ejected]と表示されます。



注意: スーパーローダまたはマガジンの損傷を防ぐために、スーパーローダからマガジンを取り出す際は、両手を使ってマガジン全体を支えてください。

7. 一方の手でマガジンのハンドルを持ち、もう一方の手で下から支えながらマガジンを引き出します。

注: マガジンが排出された後は、マガジンを完全に取り外すか、完全に再インストールしてから、スーパーローダの電源を切ってください。

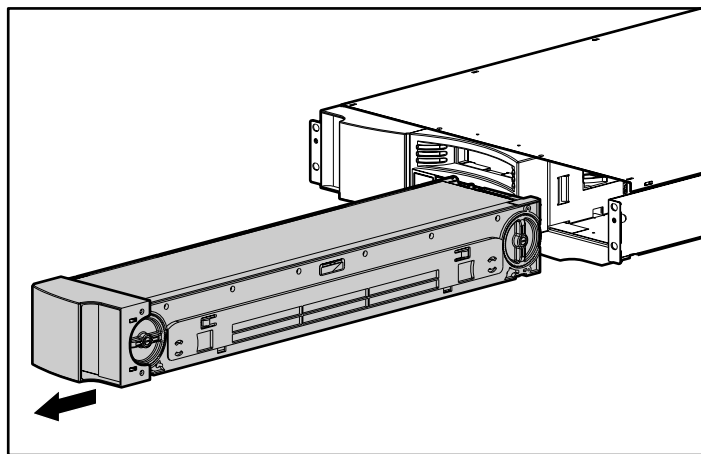


図48: マガジンを取り外す

マガジンのインストール

マガジンをインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. 一方の手でマガジンのハンドルを持ち、もう一方の手でマガジンを下から支えます。
2. マガジンをスライドさせてマガジン ベイに挿入します。マガジンの位置が正しいことを確認してください。マガジンは滑らかにスライドしなければなりません。



注意: 必ず、左のベイには左向きのマガジンのみをインストールし、右のベイには右向きのマガジンのみをインストールしてください。

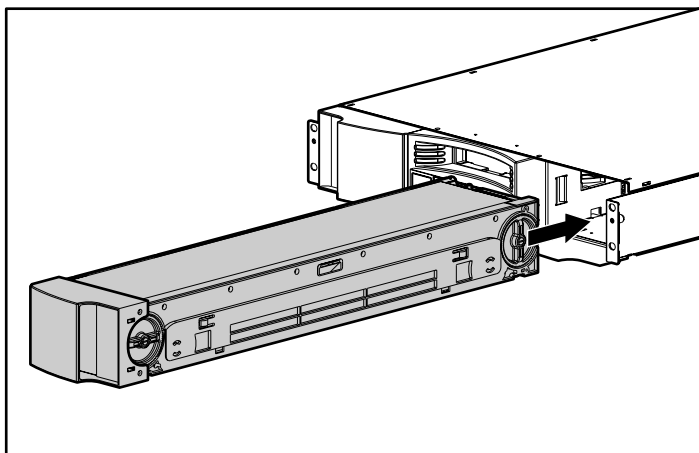


図49: マガジンをインストールする

3. マガジンは、所定の位置にカチッと合った感触があり、フロントパネルと面が揃っていれば、正しくインストールされています。LCDに、[Left Mag Inserted]または[Right Mag Inserted]と表示されます。

カートリッジのロードおよびアンロード

カートリッジをロードおよびアンロードするには、マガジンが完全に取り外されていなければなりません。

マガジンの両端には、2つのハンドルがあります。マガジン内でスロットを移動するには、これらの2つのハンドルを使用します。マガジン上部に沿った2つの開口部と、マガジン下部に沿った4つの開口部を使用して、各マガジン内の8つのスロットにカートリッジをロードおよびアンロードします。

マガジンにカートリッジをロードするには、以下の手順に従ってください。

1. マガジンの側面にある6つの開口部のうちの1つに、スロットを合わせます。
2. カートリッジを正しい方向に向けます。

注: 各スロットに付いているキー機能により、カートリッジを完全に挿入できるのは1方向だけになっています。

3. カートリッジをスロットに完全に挿入します。カートリッジをスロットに押し込む際に、カートリッジがスロットに正しく装着されるまでは少し抵抗を感じます。

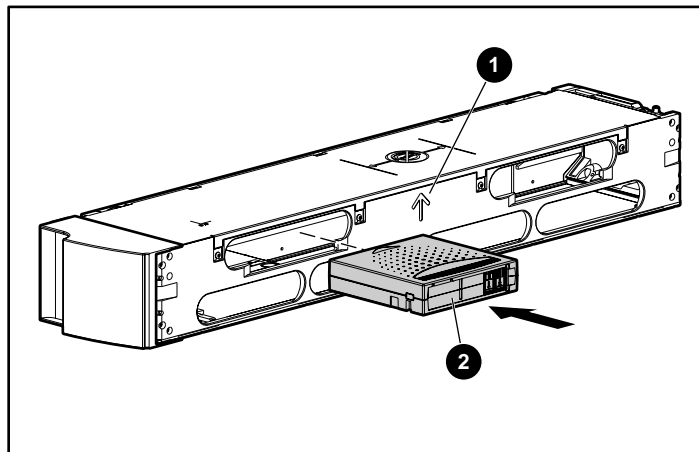


図50: カートリッジを挿入する

カートリッジを取り出すには、ハンドルを使用して、希望するスロットをマガジンの側面にある開口部に合わせます。親指と人差し指を使ってカートリッジを引き出します。カートリッジを取り出す際には、少し抵抗を感じます。

手動によるマガジンの取り外し

マガジンを手動で取り外すには、以下の手順に従ってください。

1. スーパーローダを、平らで安定した作業台に置きます。
2. スーパーローダの背面で、取り外したいマガジンの後ろにある小さな長方形の開口部を確認します。

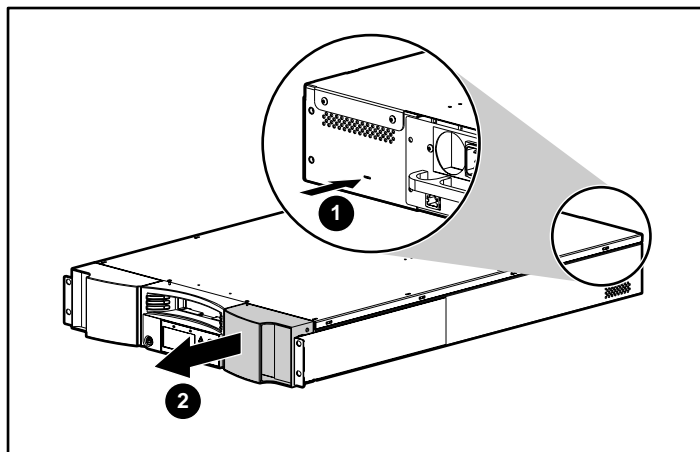


図51: 手動でマガジンを取り外す

3. 小さくて頑丈な工具(精密機器用ドライバなど)の端を、開口部の中に、ゆっくりと約2.5cm挿入します。右側のマガジンでは、工具をできるだけ左側によせてください。左側のマガジンでは、工具をできるだけ右側によせてください。
4. 右側のマガジンの場合、工具を右側にずらしません。左側のマガジンの場合、工具を左側にずらしません。工具がラッチを押すため、抵抗を感じます。ラッチが解除されるように、十分な強さで押してください。

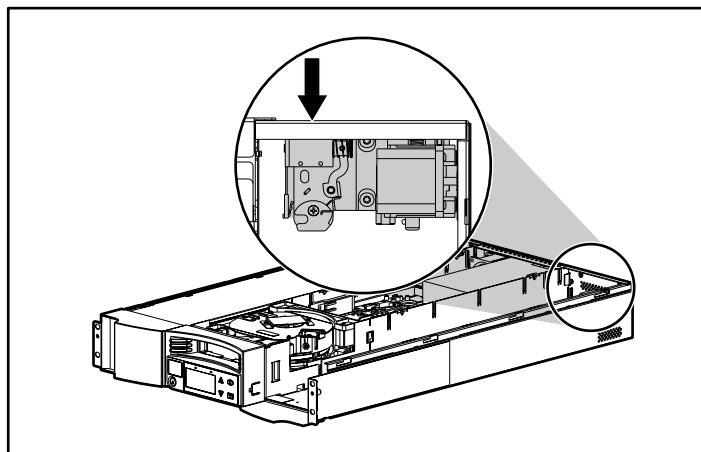


図52: 内部リリース ラッチ

ラッチを解除すると、マガジンが前に飛び出て、マガジンの前面がフロントパネルの面とずれます。

5. 一方の手でマガジンのハンドルを持ち、前にスライドさせて取り外します。もう一方の手をマガジンの下に置いて、落ちないように支えてください。

向きの変更

どのマガジンも、右側または左側のマガジン ベイに合うように向きを変更できます。マガジンの向きを変更するには、以下の手順に従ってください。

1. ハンドルをマガジンの前面に固定している2本のネジを取り外します。

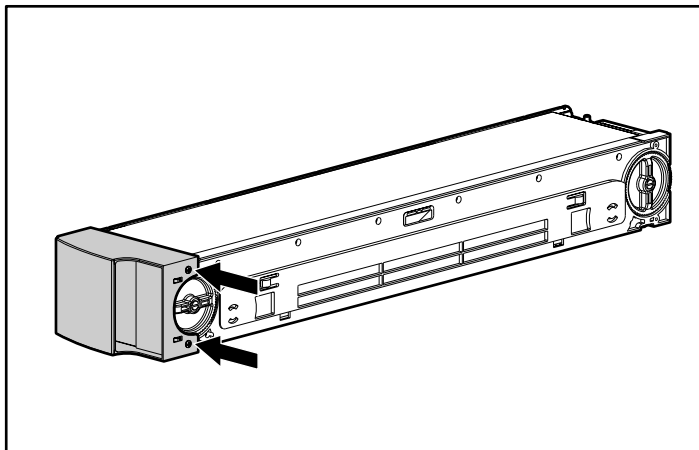


図53: ネジを取り外す

2. ヒンジを壊さないように注意して、ハンドルを外します。
3. ハンドルを180度回転させて上下を逆にします。
4. マガジンを180度回転させて前後を逆にします。

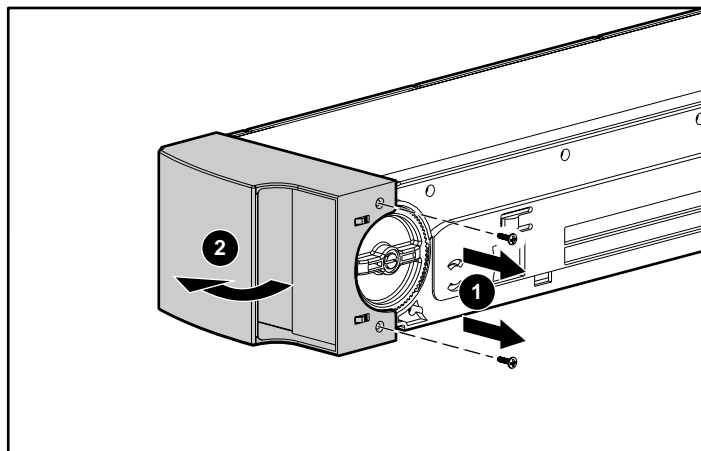


図54: ハンドルを取り外す

5. ハンドルを、マガジンの端に、カチッと取り付けます。
6. 2本のネジを取り付けて、ハンドルをマガジンにしっかりと固定します。

ステータス情報の表示

スクロールメニューからは、次の情報を表示できます。

- スーパーローダ ステータス
- ファームウェア バージョン
- エレメント ステータス
- テープドライブ ステータス
- テープドライブ バージョン
- Ethernet情報
- システム性能

スーパーローダ ステータス

スーパーローダ ステータスは、次の項目に関する情報を示します。

- マガジンがインストールされているかどうか
- SCSI接続の動作

- Ethernet接続の動作
 - バーコードリーダーがインストールされているかどうか
- スーパーローダステータスを表示するには、以下の手順に従ってください。
1. メインメニューで、[Status]にスクロールします。

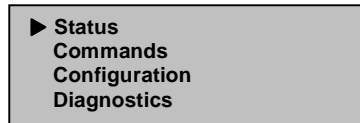


図55: メインメニュー

2. **Enter**キーを押します。
3. [Status]サブメニューで、[SuperLoader Info]にスクロールします。

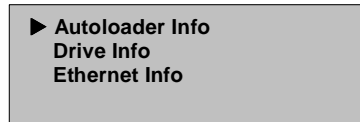


図56: [SuperLoader Info]の選択

4. **Enter**キーを押します。
5. [SuperLoader Info]サブメニューで、[Status]にスクロールします。

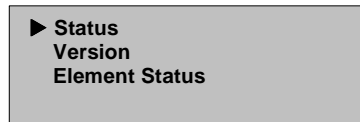


図57: [Status]の選択

6. **Enter**キーを押します。
次の画面のようなメッセージのリストが表示されます。

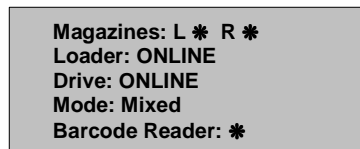


図58: スーパーローダステータスメッセージ

表4: スーパーローダ ステータス メッセージ

Magazine	
L=*	左マガジンは存在する
R=*	右マガジンは存在する
L= (no *)	左マガジンは存在しない
R= (no *)	右マガジンは存在しない
Loader	
ONLINE	スーパーローダのSCSI接続はアクティブ
OFFLINE	スーパーローダのSCSI接続は非アクティブ
Drive	
ONLINE	ドライブのSCSI接続はアクティブ
OFFLINE	ドライブのSCSI接続は非アクティブ
Mode	
Random	デフォルト。スーパーローダはRandomモードで動作中
Mixed	スーパーローダはMixedモードで動作中
Sequential	スーパーローダはSequentialモードで動作中
Seq Cycle Mode	スーパーローダはSeq Cycleモードで動作中
注: ISVは、さまざまな動作モードをサポートします。スーパーローダが正しい動作モードに設定されていることを確認してください。スーパーローダは、デフォルトではRandomモードに設定されています。詳しくは、第2章の「制御モード」を参照してください。	
Barcode Reader	
*	バーコードリーダーは存在する
No *	バーコードリーダーは存在しない

ファームウェア バージョンの表示

ファームウェア バージョンを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Status]にスクロールします (図55を参照)。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Status]サブメニューで、[SuperLoader Info]にスクロールします (図56を参照)。
4. **Enter**キーを押します。
5. [SuperLoader Info]サブメニューで、[Version]にスクロールします (図57を参照)。

6. **Enter**キーを押します。
次の画面のようなメッセージのリストが表示されます。

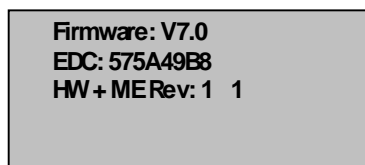


図59: スーパーローダ バージョン メッセージ

表5: スーパーローダ バージョン メッセージ

Firmware	この数は、ファームウェア バージョンを示します
EDC	この数は、ファームウェアのインストール時に生成されたエラー検出コードを示します。スーパーローダは、この番号を使用して、ファームウェアとファームウェアを保持しているメモリが正常であることを確認します
HW Rev	この数は、ハードウェア バージョンを示します
ME Rev	この数は、機械のバージョンを示します

エレメント ステータスの表示

エレメント ステータスは、マガジン スロットのステータスを表示します。このステータスは、スロットにカートリッジが含まれているかどうかと、どのスロットがクリーニングカートリッジのスロットとして割り当てられているかを示します。

エレメント ステータスを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. メイン メニューで、[Status]にスクロールします (図55を参照)。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Status]サブメニューで、[SuperLoader Info]にスクロールします (図56を参照)。
4. **Enter**キーを押します。

5. [SuperLoader Info]サブメニューで、[Element Status]にスクロールします(図57を参照)。

```
* Drive: ADI285
Mailslot:
Picker:
Enter to View
Magazines
```

図60: エlement ステータス

Enterキーを押してマガジンを表示します。すべてのマガジン スロットのマップが表示されず、使用されているスロットは、アスタリスクによって示されます。

Slot 1	Slot 2*	Slot 3*	Slot 4*
Slot 5	Slot 6	Slot 7*	Slot 8*
Slot 9	Slot 10*	Slot 11*	Slot 12*
Slot 13*	Slot 14*	Slot 15*	Slot 16*

図61: マガジン マップ

6. ステータスを確認したいカートリッジが入っているスロットにスクロールします。
7. **Enter**キーを押します。

Element ステータス画面が表示され、そのカートリッジのバーコード ラベルが示されます(以前にインベントリを実行済みの場合)。moveコマンドも画面に表示されます。

```
Label:
DRC101
Move Slot 2 To:
Slot 9
Esc to Exit
```

図62: Element ステータス画面

- c. カートリッジを移動したい場合は、移動先の位置が[TO:]の下に表示されるまでスクロールして、**Enter**キーを押します。
d. カートリッジを移動したくない場合は、**Esc**キーを押します。

テープドライブステータスの表示

テープドライブステータスを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Status]にスクロールします（図55を参照）。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Status]サブメニューで、[Drive Info]にスクロールします（図56を参照）。
4. **Enter**キーを押します。
5. [Drive Info]サブメニューで、[Status]にスクロールします（図57を参照）。
6. **Enter**キーを押します。

次の画面のようなメッセージのリストが表示されます。

SCSI ID	5
Loader LUN	1
Compression Enabled	
Drive Cart Present	

図63: ドライブステータス画面

表6: テープドライブステータスメッセージ

SCSI ID	この数は、スーパーローダのSCSI ID番号を示します
Loader LUN	この数は、スーパーローダの論理ユニット番号を示します
Compression	テープドライブ圧縮が有効にされているか無効にされているかを示します
Drive Cart	ドライブカートが存在するかどうかを示します

テープドライブバージョンの表示

テープドライブバージョンを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Status]にスクロールします（図55を参照）。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Status]サブメニューで、[Drive Info]にスクロールします（図56を参照）。
4. **Enter**キーを押します。
5. [Drive Info]サブメニューで、[Version]にスクロールします（図57を参照）。

6. **Enter**キーを押します。
次の画面のようなメッセージのリストが表示されます。

```

Product Type: DLT 1
Policy Version:
35.52
Servo Version:
65.6
    
```

図64: テープドライブバージョン画面

表7: テープドライブバージョンメッセージ

Product Type	この数は、インストールされている製品のタイプ (DLT1) を示します
Policy Version	この数は、テープドライブのためのポリシー プロセッサのバージョンを示します。通常は、テープドライブのファームウェア バージョンです
Servo Version	この数は、サーボ プロセッサのファームウェア バージョンを示します

Ethernet情報の表示

Ethernet情報を表示するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Status]にスクロールします (図55を参照)。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Status]サブメニューで、[Ethernet Info]にスクロールします (図56を参照)。
4. **Enter**キーを押します。

次の画面のようなメッセージのリストが表示されます。

```

MAC address:
00-e0-9e-03-0e-39
IP Address
16.116.76.46
Network: Disconnected
    
```

図65: Ethernet情報の表示

表8: Ethernet情報メッセージ

Mac Address	Ethernetカードのシリアル番号を示します
IP Address	この数は、静的IPアドレス、または現在割り当てられている動的IPアドレスを示します
Network	スーパーローダがネットワーク接続されているかどうかを示します

インベントリの実行

スーパーローダは、マガジンに現在ロードされているカートリッジを追跡する手段を提供します。スーパーローダは、バーコードリーダーが装備されている場合、カートリッジのバーコードラベルをスキャンして、そのデータを不揮発性メモリに保存できます。

スーパーローダは、電源投入時およびマガジン挿入時に、自動的にインベントリを実行します。

インベントリを実行するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Command]にスクロールします。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Command]サブメニューで、[Inventory]にスクロールします。
4. **Enter**キーを押します。

スーパーローダは、存在するすべてのカートリッジのバーコードをスキャンします。

データ圧縮の設定

スーパーローダが、ネイティブ(非圧縮)フォーマットでテープにデータを書き込むか、圧縮して書き込むかを設定できます。データを圧縮した場合、スーパーローダは通常、同量のテープに2倍のデータを書き込むことができます。実際の圧縮率は、バックアップするデータの種類によって異なる場合があります。また、圧縮により、SCSIバスとのデータ転送の性能も向上します。

通常は、このオプションを有効にしておくことをおすすめします。

圧縮オプションを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Configuration]にスクロールします。

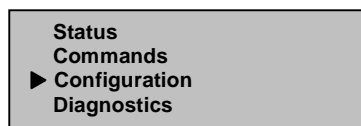


図66: メインメニュー

2. **Enter**キーを押します。
3. [Configuration]サブメニューで、[Compression]にスクロールします。



図67: 圧縮を設定する

4. **Enter**キーを押します。
 [Compression]の横にチェックが表示されている場合、圧縮オプションは有効になっています。チェックマークが表示されていない場合、圧縮オプションは無効になっています。
 - a. 圧縮オプションを変更しない場合は、**Esc**キーを押します。
 - b. 圧縮オプションを変更する場合は、**Enter**キーを押します。

ファームウェアのアップデート

スーパーローダのファームウェアは、HP製ライブラリおよびテープツール (LTT) を使用してアップデートできます。詳細手順およびLTTのダウンロードについては、HPのWebサイト<http://www.hp.com/support/tapetools/> (英語) を参照してください。

また、スーパーローダのファームウェアは、Ethernetポート経由で、Web Administratorを使用してアップデートすることもできます。Web Administratorのファームウェアイメージは、HPのFTPサイト<ftp://ftp.hp.com/> (英語) から入手できます。

設定

Ethernet設定を変更するには、第2章の「Ethernet」を参照してください。

Web Administration

フロントパネルから実行される操作の多くは、Web Administrationを使用してリモートで実行することもできます。

スーパーローダへの接続を確立した後で、任意のHTMLブラウザを開いて、スーパーローダのIPアドレスを入力します（「スーパーローダのIPアドレス」を参照するか、Web管理者に問い合わせてください）。ブラウザのプロキシサーバ設定が無効になっていることを確認してください。

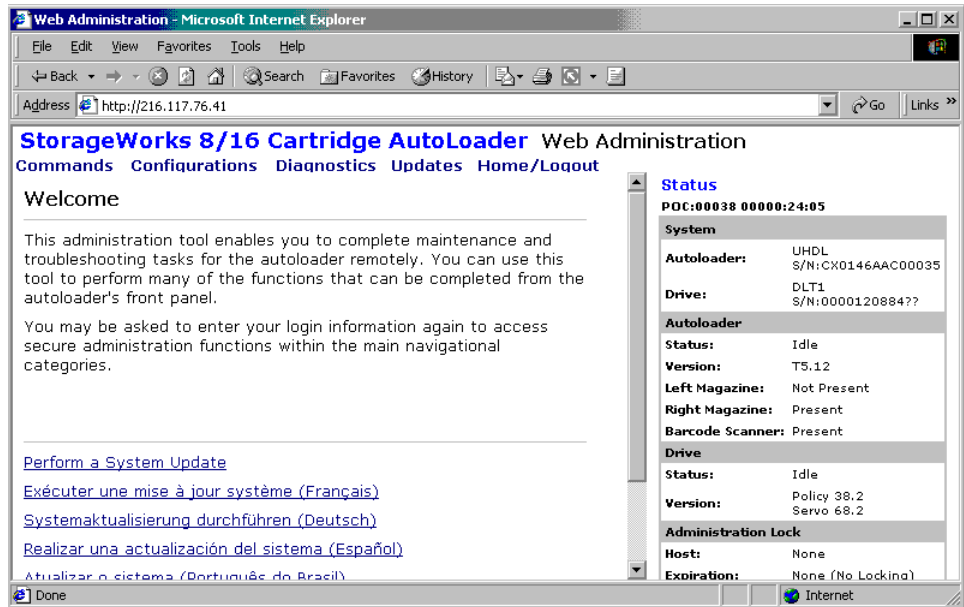


図68: [Web Administration]ホームページ

デフォルトのパスワード

デフォルトのユーザIDはguestです。デフォルトのパスワードもguestです。ユーザIDおよびパスワードの変更については、この章の「セキュリティ オプションの設定」を参照してください。

ステータス情報は、Web Administrationのホームページおよび各ページの右側に表示されます。各ページの先頭には、メニュー項目も表示されます。メニュー項目の下の機能にアクセスするには、メニュー項目をクリックします。Web Administrationは、ユーザ名とIDの入力を要求し、そのメニューの開始ページを表示します。

[Configurations]ページの左側には、サブメニューが表示されます。Web Administrationが最初の[Configurations]ページを表示している場合は、[Systems Operations]サブメニューにアクセスできます。[Networking] をクリックすれば Ethernet 設定オプションにアクセスでき、[Security]をクリックすればセキュリティ設定オプションにアクセスできます。

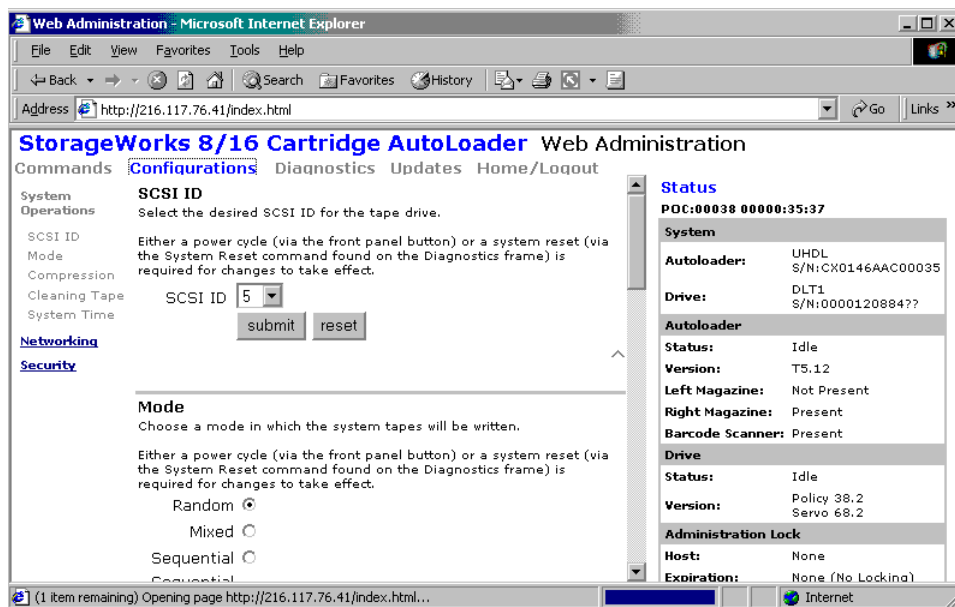


図69: [Configurations]ページ

通常は、オプションを設定した後で、[Submit]ボタンをクリックして新しい設定を実装します。すべての[Submit]ボタンの横には、[Reset]ボタンがあります。[Reset]ボタンは、スーパーローダをデフォルト設定にリセットするのではなく、そのオプション内の設定をクリアして変更できるようにするだけです。

ステータス情報の表示

ステータス情報は、Web Administrationを開くだけで表示されます。ステータス情報は各ページの右側に表示されるため、コマンドを実行する必要はありません。この情報は10秒ごとに自動的に更新されるので、表示されるステータスはリアルタイム情報です。

テープの移動

テープを移動するには、以下の手順に従ってください。

1. 任意の[Web Administration]ページで、[Commands]をクリックします。
2. [Moving Tapes]の[From:]のドロップダウン メニューから、移動したいテープの現在の位置を選択します。

注: グラフィック上のスロットをクリックして選択することもできます。

3. [To:]のドロップダウン メニューから、テープの移動先にしたい位置を選択します。
4. [submit]をクリックします。

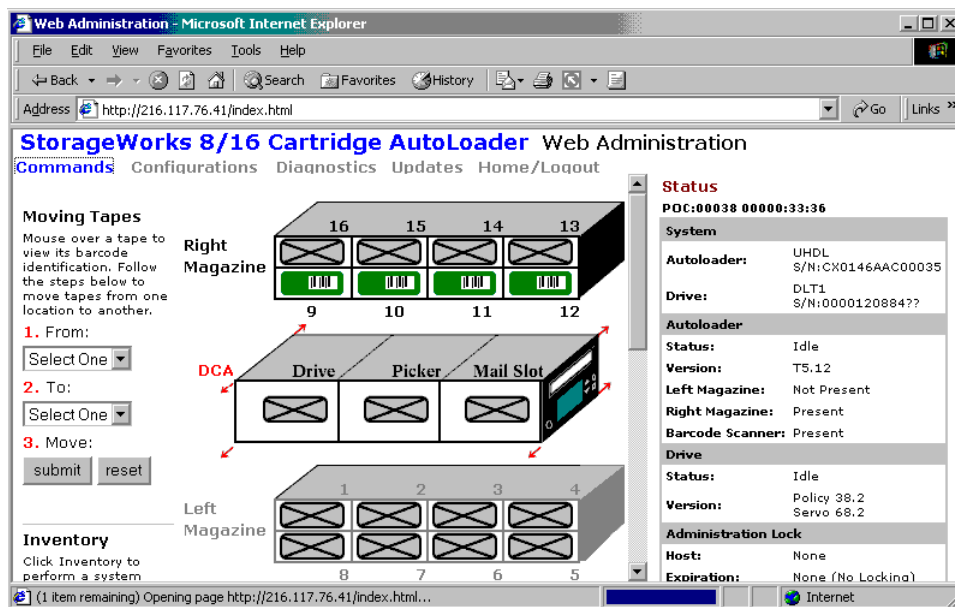


図70: [Web Administration]を使用したテープの移動

インベントリの実行

スーパーローダは、電源投入時またはマガジン挿入時に、自動的にインベントリを実行します。これ以外でインベントリを実行する必要がある場合は、Web Administrationを使用してリモートで実行することができます。

インベントリを実行するには、以下の手順に従ってください。

1. 任意の[Web Administration]ページで、[Commands]をクリックします。
2. [Commands]ページで、[Inventory]をクリックします。

HOMEコマンドの発行

スーパーローダが移動コマンドまたはインベントリ コマンドを正常に実行できない場合は、HOMEコマンドを実行してから、移動またはインベントリ コマンドを再び実行してみてください。

HOMEコマンドは、スーパーローダを未知の内部状態から回復させるために、スーパーローダをリセットします。このコマンドを使用する必要は、めったにありません。

HOMEコマンドを発行するには、以下の手順に従ってください。

1. 任意の[Web Administration]ページで、[Commands]をクリックします。
2. [Commands]ページで、[Home]をクリックします。

診断テストの実行

ステータス情報にエラーが表示されている場合は、イベント ログを表示します。
イベント ログを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. 任意の[Web Administration]ページで、[Diagnostics]をクリックします。

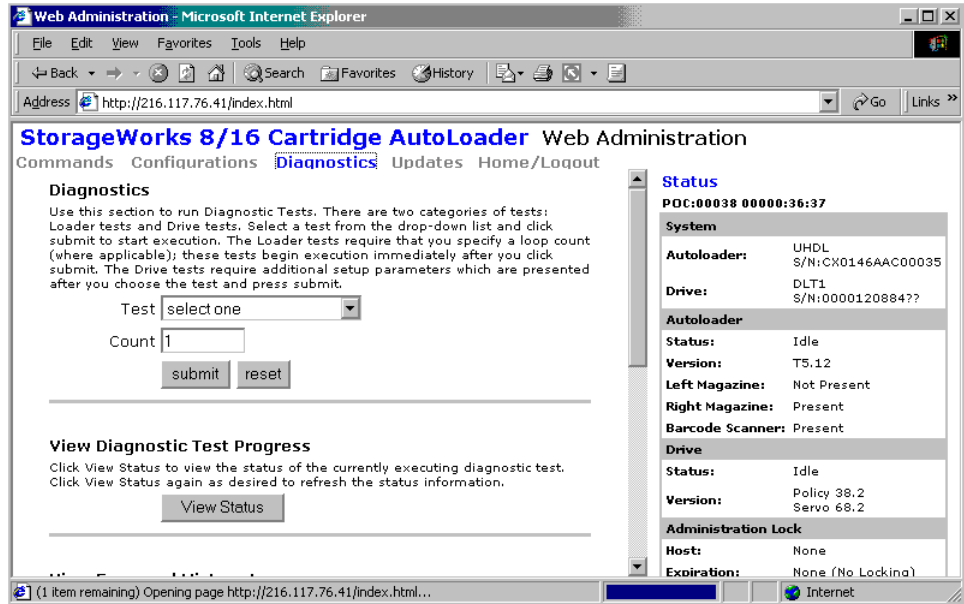


図71: [Diagnostics]ページ

2. [View Log]をクリックします。

ステータス情報にエラーメッセージが表示されている場合は、診断テストを実行しなければなりません。

診断テストを実行するには、以下の手順に従ってください。

1. 任意の[Web Administration]ページで、[Diagnostics]をクリックします。
2. [Test]ドロップダウンメニューから、実行したい診断テストを選択します。
3. [submit]をクリックします。
4. テストの実行中は、[View Status]をクリックすることによってテストの状態を表示できます。ステータス情報を更新するには、ブラウザの[戻る]ボタンをクリックしてから、[View Status]ボタンを再びクリックします。

システム時刻の設定

スーパーローダがタイムサーバに接続されていない場合、Web Administrationを使用して手動で時刻を設定できます。

最初にタイムゾーンを入力してから、日付と時刻を入力します。サマータイムなどの時刻変更を含めたい場合は、それらの時刻変更の発生時に手動で設定しなければなりません。

タイムゾーンを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. 任意の[Web Administration]ページで、[Configurations]をクリックします。
2. [Time Zone]の横の最初のドロップダウンリストから、現地時刻とグリニッジ標準時(GMT)の時差の「時間」の桁を選択します。
3. [Time Zone]の横の2番目のドロップダウンリストから、現地時刻とグリニッジ標準時(GMT)の時差の「分」の桁を選択します。
4. [submit]をクリックします。

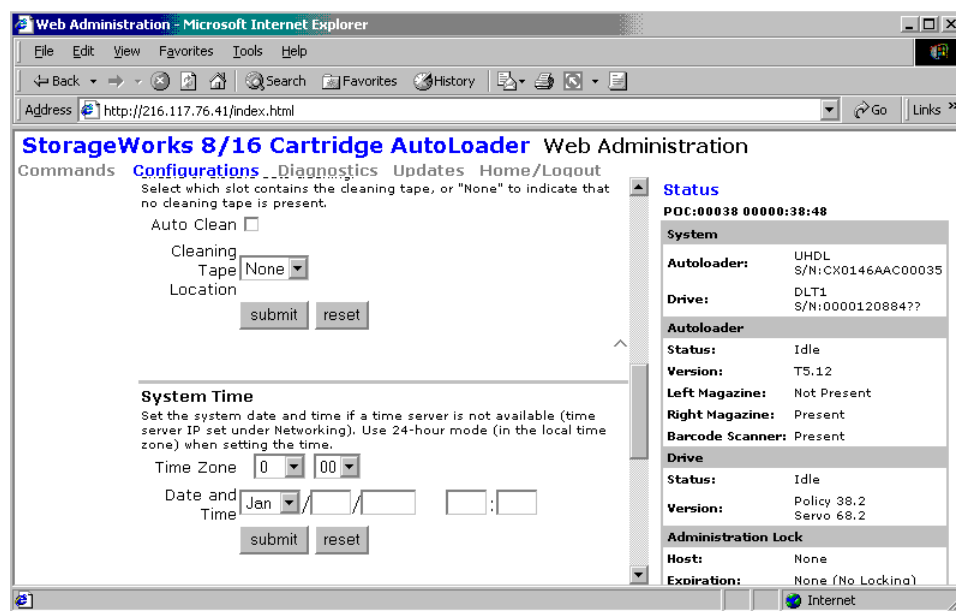


図72: システム時刻の設定

日付および時刻を設定するには、以下の手順に従ってください。

1. 任意の[Web Administration]ページで、[Configurations]をクリックします。
2. 月のドロップダウン リストから、現在の月を選択します。
3. 日のドロップダウン リストから、現在の日を選択します。
4. 年のドロップダウン リストから、現在の年を選択します。
5. 時間のテキスト ボックスに、現在の時を、24時間フォーマットでタイプします。
6. 分のテキスト ボックスに、現在の分をタイプします。
7. **[submit]**をクリックします。

SCSI IDの変更

スーパーローダのSCSI IDを変更する必要がある場合は、Web Administrationツールを使用して変更できます。

SCSI IDを変更するには、以下の手順に従ってください。

1. 任意の[Web Administration]ページで、[Configurations]をクリックします。
2. [SCSI ID]のドロップダウン リストから、IDに設定したい番号をクリックします。

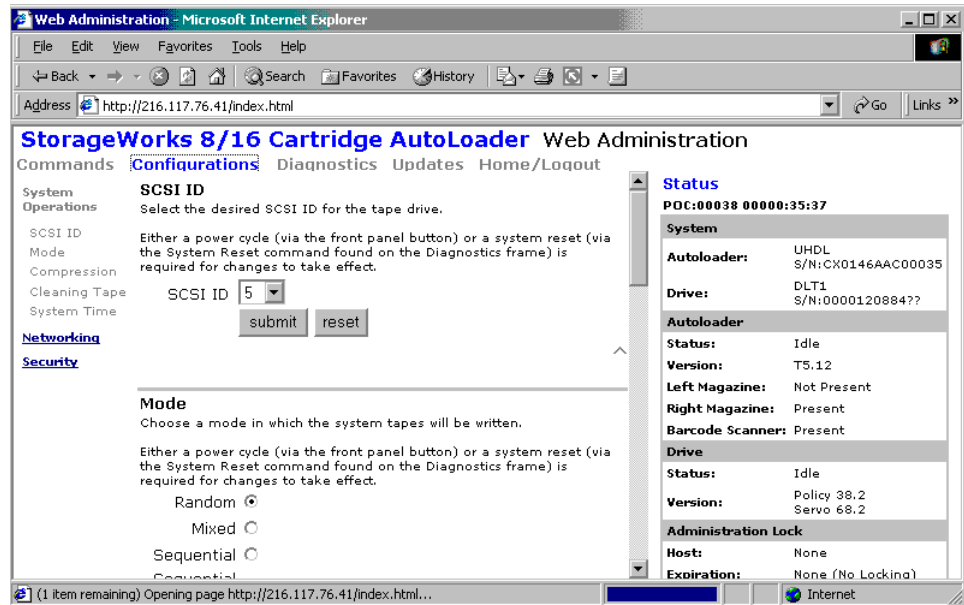


図73: SCSI IDの設定

3. [submit]をクリックします。
新しいSCSI IDを有効にするには、スーパーローダを再起動する必要があります。

制御モードの設定

制御モードを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. 任意の[Web Administration]ページで、[Configurations]をクリックします。
[Mode]の下で、現在のモードが選択されています。

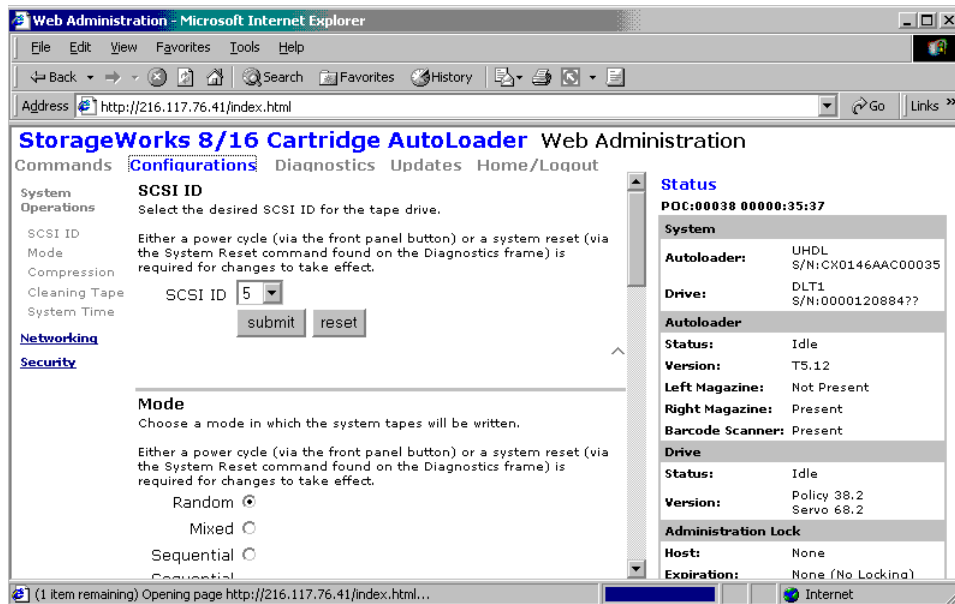


図74: 制御モードの設定

2. モードを変更するには、異なるオプションをクリックします。
3. [submit]をクリックします。
新しいモードを有効にするには、スーパーローダを再起動する必要があります。

圧縮の設定

圧縮を設定するには、以下の手順に従ってください。

1. 任意の[Web Administration]ページで、[Configurations]をクリックします。
2. [Compression] の横のボックスにチェックマークが表示されている場合は、圧縮が有効になっています。圧縮を無効にするには、ボックスをクリックして、チェックマークを削除します。
3. [Compression] の横のボックスにチェックマークが表示されていない場合は、圧縮が無効になっています。圧縮を有効にするには、ボックスをクリックして、チェックマークを入力します。
4. [submit]をクリックします。

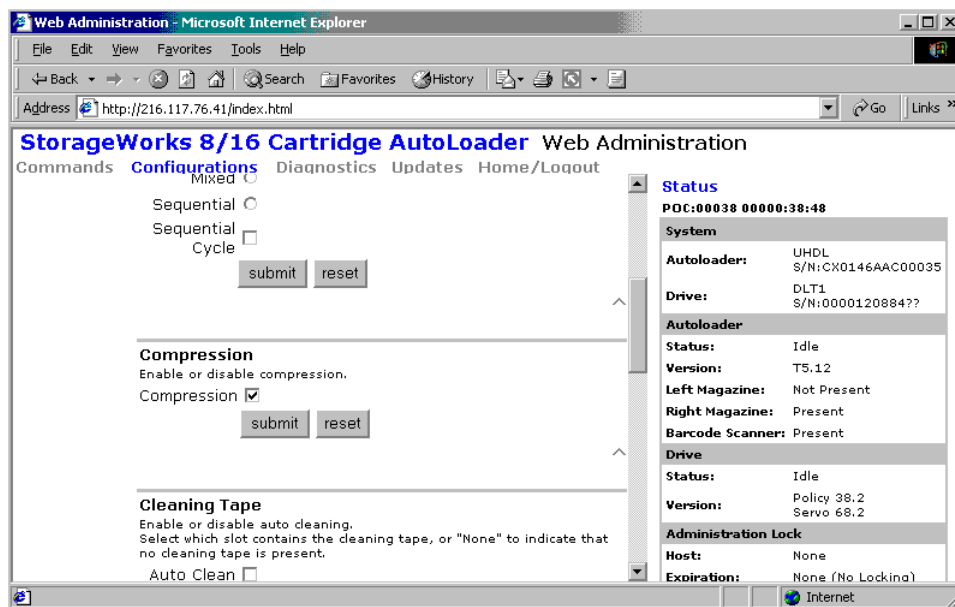


図75: 圧縮の設定

クリーニング モードの設定

自動クリーニング機能を有効にするには、クリーニング テープ カートリッジ用のスロットが指定されていなければなりません。すでにスロットが指定されている場合は、[Cleaning Cartridge Location]の横に、そのスロットの番号が表示されています。まだスロットが指定されていない場合は、ボックスが空になっています。

クリーニング テープのスロットを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. 任意の[Web Administration]ページで、[Configurations]をクリックします。
2. [Cleaning Cartridge Location]の横のドロップダウン リストから、クリーニング カートリッジを保管したいスロットの番号を選択します。
3. [submit]をクリックします。

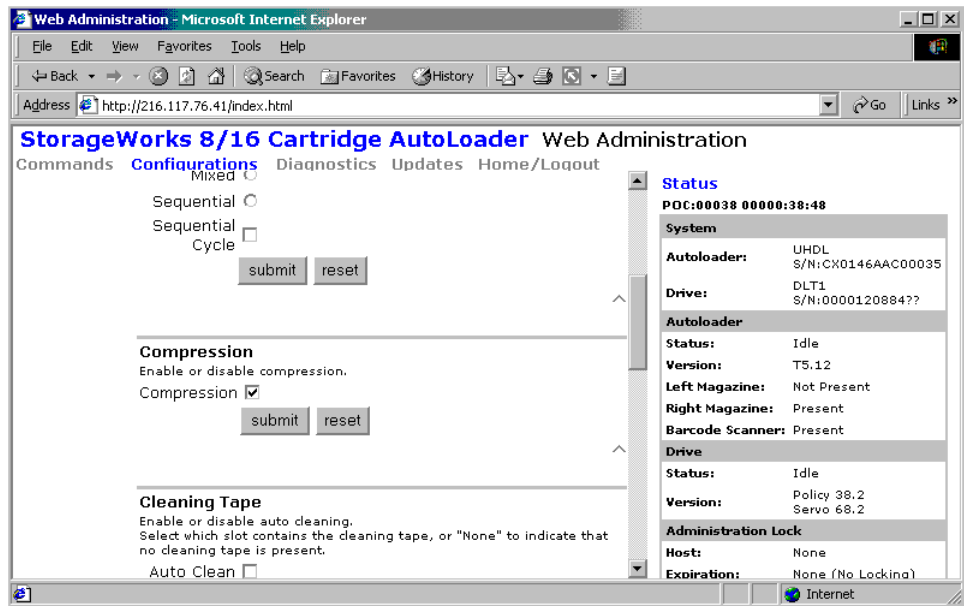


図76: クリーニング テープ

自動クリーニング オプションを設定したい場合は、以下の手順を使用してください。テープドライブを手動でクリーニングするには、[Move]機能を使用してクリーニング テープをテープドライブにロードおよびアンロードします。

自動クリーニングを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. 任意の[Web Administration]ページで、[Configurations]をクリックします。
2. [Enable Auto Clean]の横のボックスにチェックマークが表示されている場合は、このオプションが有効になっています。自動クリーニングを無効にするには、ボックスをクリックしてチェックマークを削除します。[Enable Auto Clean]の横のボックスにチェックマークが表示されていない場合は、オプションが無効になっています。自動クリーニングを有効にするには、ボックスをクリックしてチェックマークを入力します。
3. [submit]をクリックします。

Ethernetの設定

Ethernet接続は、スーパーローダの最初のインストール時に、フロントパネルを介して設定します。ただし、Web Administrationツールを使用して、それらの設定を変更できます。

Ethernet設定を変更するには、以下の手順に従ってください。

1. 任意の[Web Administration]ページで、[Configurations]をクリックします。
2. サブメニューで、[Networking]をクリックします。
現在の設定が画面に表示されます。

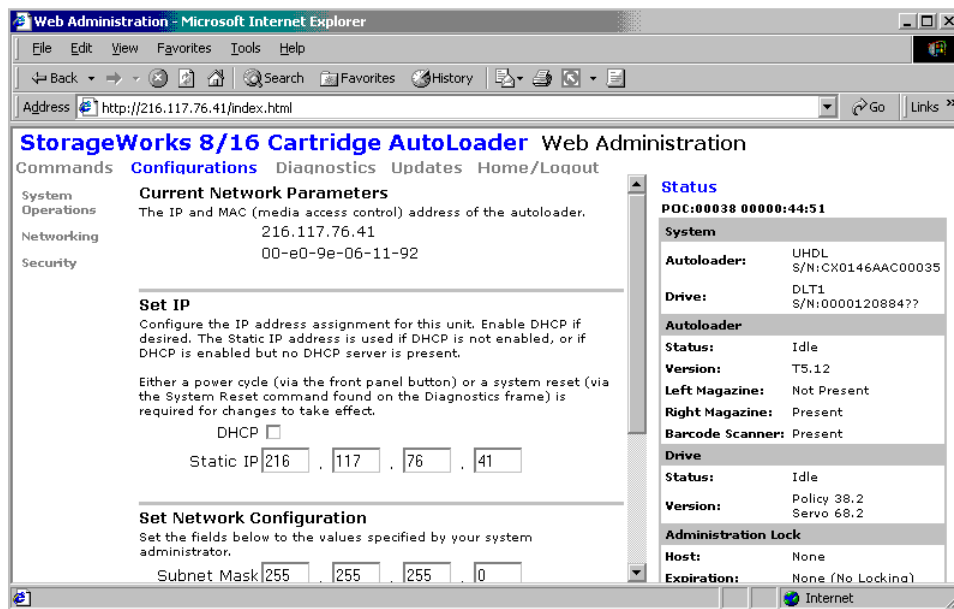


図77: [Networking]オプション

3. [DHCP]の横のボックスにチェックマークが表示されている場合は、動的IPアドレス オプションが有効になっています。静的IPアドレスを設定するには、次の手順を実行してください。
 - a. ボックスをクリックしてチェックマークを削除します。
 - b. IPアドレス フィールドに、新しいアドレスをタイプします。ボックス間の移動には**Tab**キーを使用してください。
4. [DHCP]の横のボックスにチェックマークが表示されていない場合は、静的IPアドレス オプションが有効になっています。静的IPアドレスを変更するには、IPアドレス フィールドに新しいアドレスをタイプします。ボックス間の移動には**Tab**キーを使用してください。
5. IPアドレスを、静的アドレスから動的アドレスに設定するには、[DHCP]の横のボックスをクリックして、IPアドレス フィールドからIPアドレスを削除します。
6. サブネット マスク、ゲートウェイ、SNMPサーバ、またはタイム サーバのIPアドレスを変更するには、次の手順を実行してください。
 - a. 変更したいアドレスの左のボックスをクリックしてチェックマークを入力します。
 - b. 新しいアドレスをタイプします。ボックス間の移動には**Tab**キーを使用してください。
7. **[submit]**をクリックします。

セキュリティ オプションの設定

セキュリティ オプションを有効にすると、パスワードを入力しなければスーパーローダの機能にアクセスできなくなります。パスワードによって、管理者レベルのアクセスまたはオペレータレベルのアクセスが可能になります（パスワード保護のレベルについて詳しくは、「セキュリティ」を参照してください）。

セキュリティ オプションを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. 任意の[Web Administration]ページで、[Configurations]をクリックします。
2. サブメニューで、[Security]をクリックします。

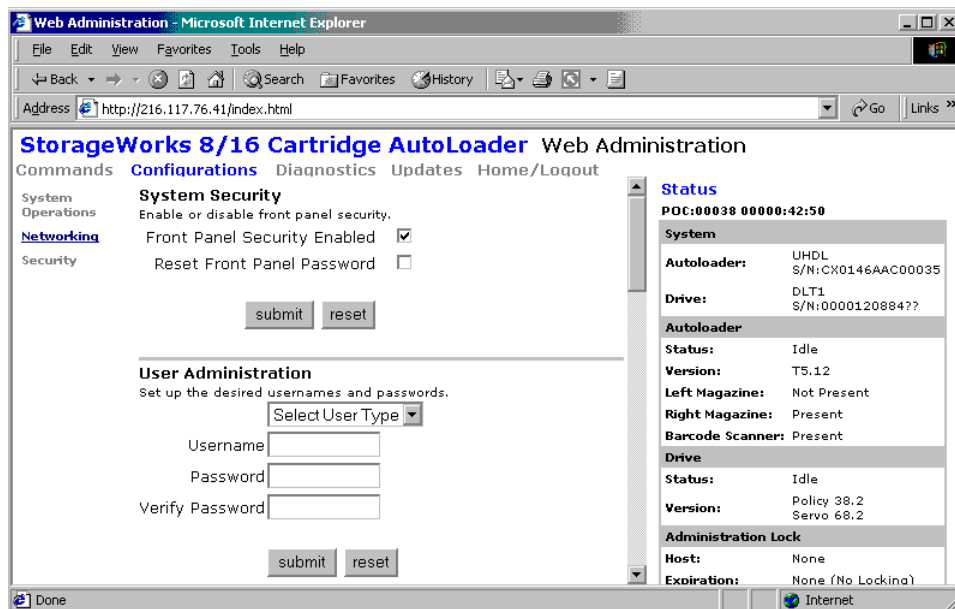


図78: [Security]オプション

3. [Security]の横のボックスにチェックマークが表示されている場合は、セキュリティ オプションが有効になっています。セキュリティ オプションを無効にするには、ボックスをクリックしてチェックマークを削除します。[Security]の横のボックスにチェックマークが表示されていない場合は、セキュリティ オプションは無効になっています。セキュリティ オプションを有効にするには、ボックスをクリックしてチェックマークを入力します。
4. [submit]をクリックします。

パスワードの設定

スーパーローダのフロントパネルでパスワードを入力する際は、関連するユーザ名はありません。ただし、Web Administrationのホームページでメニュー項目をクリックすると、ユーザ名とパスワードの入力が要求されます。

Web Administrationでは、4つのユーザ名とIDを、英数字を使用してセットアップできます。ユーザ名とIDの長さは、4～7文字でなければなりません。

パスワードを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. 任意の[Web Administration]ページで、[Configurations]をクリックします。
2. サブメニューで、[Security]をクリックします。
3. [User Type]の横のドロップダウン リストから、[Administrator]または[Operator]を選択します。
4. [Username]フィールドに、ユーザ名を入力します。
5. [Password]フィールドに、パスワードを入力します。
6. [Verify Password]フィールドに、もう一度パスワードを入力します。
7. **[submit]**をクリックします。

フロントパネルのオペレータパスワードはWeb Administrationからリセットできますが、フロントパネルの管理者パスワードは以下の方法ではリセットできません。

フロントパネルのオペレータパスワードをリセットするには、以下の手順に従ってください。

1. 任意の[Web Administration]ページで、[Configurations]をクリックします。
2. サブメニューで、[Security]をクリックします。
3. [Reset Front Panel Password]の横のボックスをクリックします。チェックマークが表示されます。
4. **[submit]**をクリックします。

ファームウェアのアップデート

ファームウェアをアップデートするには、以下の手順に従ってください。

1. 任意の[Web Administration]ページで、[Updates]をクリックします。

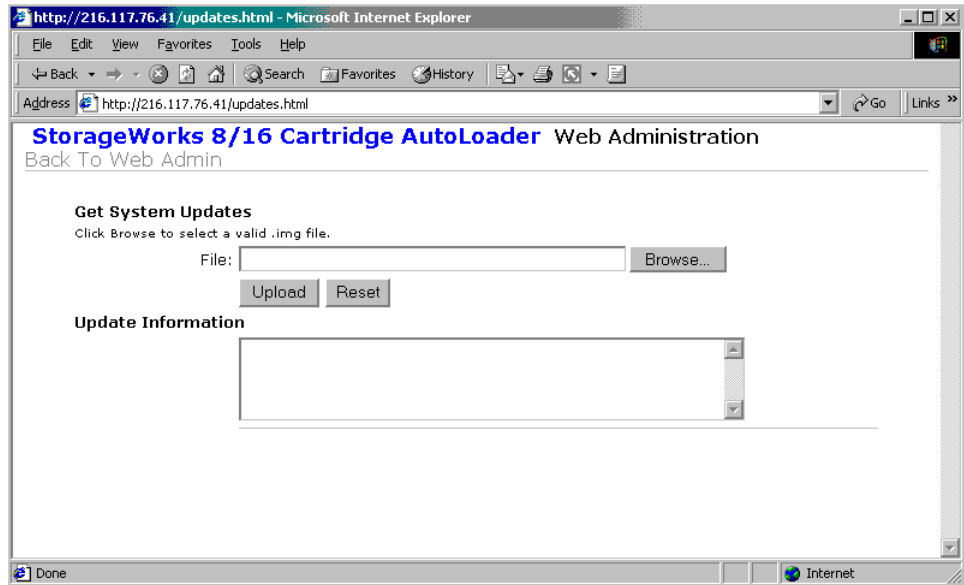


図79: システム アップデートの入手

2. [Browse]をクリックします。
3. ファームウェア アップデートの位置を選択します。
4. [submit]をクリックします。

スーパーローダは、自動的に新しいコードをアップロードして、ファームウェアをアップデートします。

注: LCDに、アップデートが完了したことを示すメッセージが表示されます。このメッセージが表示されるまでは、スーパーローダを再起動しないでください。

テープドライブのクリーニング

5

テープドライブの読み取り/書き込みヘッドは、定期的にクリーニングする必要があります。クリーニングが必要な場合、ドライブは自動的に、バックアップソフトウェアにクリーニング操作の実行を要求します。ただし、必要に応じて、フロントパネルからクリーニングを開始することもできます。

テープドライブのクリーニングには、クリーニングテープを使用します。DLTtapeクリーニングテープの外観は、シェルがベージュ色になっている点を除いて、DLTtape IVカートリッジとまったく同じです。

クリーニングテープの位置の設定

クリーニングテープを挿入する前に、クリーニングテープの位置を設定しなければなりません。

1. メインメニューで、[Configuration]にスクロールします。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Cleaning Tape]にスクロールします。
4. **Enter**キーを押します。
5. 管理者としてログインします。
6. [Cleaning Tape Location]にスクロールします。
7. **Enter**キーを押します。
8. 使用可能なスロット（スロット番号の横に*がないもの）を選択します。

クリーニング テープの挿入

クリーニング テープは、次の2つの方法で挿入できます。

- 取り外したマガジンにクリーニング テープを直接ロードして、マガジンを再ロードする。
- メール スロットを介してクリーニング テープを挿入する。

メールスロットを介してクリーニング テープを挿入するには、以下の手順に従ってください。

1. メイン メニューで、[Command]にスクロールします。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Command]サブメニューで、[Cleaning Tape]にスクロールします。
4. **Enter**キーを押します。
5. オペレータとしてログインします。
6. [Cleaning Tape]サブメニューで、[Enter Cleaning Tape]にスクロールします。
7. **Enter**キーを押します。

LCDにカウントダウンが表示されます。メール スロットを介してクリーニング テープをロードするための20秒間が経過した後、メール スロットは再びロックされます。カートリッジを押し入れて、要求されたら**Enter**キーを押します。システムはテープを受け入れます。クリーニング スロットを設定せずに、メール スロットを介してクリーニング テープをロードしようとする、スーパーローダはそのテープの受け入れを拒否します。

8. メール スロットを介してクリーニング テープを挿入した後は、次のどちらかを実行します。
 - 手動クリーニングに直接進む。
 - クリーニング テープを、後で使用するためにマガジン スロットに格納する。

クリーニング テープの格納

格納したクリーニング テープは、次の方法で使用できます。

- 手動クリーニングに使用。
- 自動クリーニング機能が有効になっている場合、スーパーローダは、クリーニング テープをマガジン スロットからテープドライブに移動し、クリーニング サイクルの後に、元のスロットに戻すことができます。

- バックアップソフトウェアのクリーニング機能が有効になっている場合、ソフトウェアは、クリーニングテープをマガジン スロットからテープドライブに移動し、クリーニングサイクルの後で、元のスロットに戻すことができます（詳しくは、バックアップソフトウェアのマニュアルを参照してください）。

クリーニングテープを格納するには、以下の手順に従ってください。

1. メール スロットを介してテープを挿入した後、メイン メニューで、[Configuration]にスクロールします。
2. **Enter**キーを押します。
[Configuration]サブメニューが表示されます。
3. サブメニューで、[Cleaning Tape Location]にスクロールします。
4. **Enter**キーを押します。
5. 管理者としてログインします。
すべてのマガジン スロットのマップが表示されます。

注: マガジン スロットのマップがディスプレイに表示された場合、アスタリスク(*)は、データカートリッジによって使用されているスロットを示し、感嘆符(!)は、クリーニングカートリッジによって使用されているスロットを示します。

Slot 1	Slot 2*	Slot 3*	Slot 4*
Slot 5	Slot 6	Slot 7*	Slot 8*
Slot 9	Slot 10*	Slot 11*	Slot 12*
Slot 13*	Slot 14*	Slot 15*	Slot 16*

図80: マガジン スロットのマップ

6. クリーニングテープを格納したいスロットにスクロールします。

注: クリーニングテープを格納する場合、どのスロットにテープを格納するかを指定しなければなりません。

7. **Enter**キーを押します。
スーパーローダは、新しい位置にテープを移動します。

クリーニング テープの取り出し

次の条件下では、スーパーローダからクリーニング テープを取り出す必要があります。

- 手動でテープドライブをクリーニングした後で、クリーニング テープをマガジン スロットに格納したくない場合
- クリーニング テープの寿命が切れた場合

クリーニング テープカートリッジは、20回のクリーニングに使用できます。

クリーニング テープを取り出すには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Command]にスクロールします。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Command]サブメニューで、[Cleaning Tape]にスクロールします。
4. **Enter**キーを押します。
5. オペレータとしてログインします。
6. [Cleaning Tape]サブメニューで、[Eject Cleaning Tape]にスクロールします。
7. **Enter**キーを押します。

スーパーローダは、クリーニング テープをメール スロットから排出します。

テープドライブのクリーニング方法

テープドライブは、次の3つの方法でクリーニングできます。

- 手動クリーニング
- 自動クリーニング
- ソフトウェア

手動クリーニング

自動クリーニング機能もバックアップ ソフトウェアのクリーニング オプションも有効になっていない場合に、ドライバがクリーニングを要求すると、スーパーローダは、LCDにクリーニング メッセージを表示します。



注意: クリーニング テープは研磨剤を使用しているため、クリーニング メッセージが表示されないかぎり使用しないでください。

テープドライブを手動でクリーニングするには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Command]にスクロールします。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Command]サブメニューで、[Cleaning Tape]にスクロールします。
4. **Enter**キーを押します。
5. オペレータとしてログインします。
6. [Cleaning Tape]サブメニューで、[Load to Drive]にスクロールします。
7. **Enter**キーを押します。

スーパーローダは、クリーニングテープをスロットからテープドライブに移動し、そのテープを使用してドライブをクリーニングします。クリーニングが終了したら、クリーニングテープをマガジンスロットに戻さなければなりません。

8. メインメニューで、[Command]にスクロールします。
9. **Enter**キーを押します。
10. [Command]サブメニューで、[Cleaning Tape]にスクロールします。
11. **Enter**キーを押します。
12. オペレータとしてログインします。
13. [Cleaning Tape]サブメニューで、[Unload from Drive]にスクロールします。
14. **Enter**キーを押します。

スーパーローダは、クリーニングテープをテープドライブから取り出します。

15. テープドライブの手動クリーニングが終了したら、次のどちらかを実行します。
 - クリーニングテープをマガジンスロットに格納する（「クリーニングテープの格納」を参照）。
 - クリーニングテープをスーパーローダから取り出す（「クリーニングテープの取り出し」を参照）。

自動クリーニング

自動クリーニング機能により、スーパーローダは、通常の動作を中断せずに自動的にクリーニングのプロセスを実行できます。自動クリーニング機能は、デフォルトではオフに設定されています。

自動クリーニングが有効になっている場合、スーパーローダは、テープドライブのクリーニング要求を監視します。ドライブが[Cleaning Required]ステータスを示すと、スーパーローダは自動的にクリーニングカートリッジをスロットから取り出して、テープドライブに挿入します。クリーニングサイクルの完了後に、スーパーローダは、クリーニングカートリッジをスロットに戻します。

自動クリーニングが有効になっている場合、スーパーローダは、[Cleaning Required]ステータスが発生したら自動的にテープドライブをクリーニングします。クリーニングサイクルの間、LCDは、プロセスの進行を示す以下のメッセージを表示します。

- Loading Cleaning Cartridge - SuperLoaderは、クリーニングカートリッジをマガジン スロットからテープドライブにロードしています。
- Cleaning Drive - テープドライブでクリーニングカートリッジが走行中です。
- Unloading Cleaning Cartridge - SuperLoaderは、クリーニングテープをマガジン スロットに戻しています。

注: 自動クリーニングを有効にする場合は、バックアップソフトウェアのクリーニングオプションがオフになっていることを確認してください。

自動クリーニングオプションを有効にする前に、どのスロットにクリーニングカートリッジを入れるかを指定し、そのスロットにクリーニングカートリッジをロードしなければなりません。これを行っていない場合、自動クリーニングは有効になりません。

自動クリーニングを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メインメニューで、[Configuration]にスクロールします。
2. **Enter**キーを押します。
3. [Configuration]サブメニューで、[Cleaning Tape]にスクロールします。
4. **Enter**キーを押します。
5. 管理者としてログインします。
6. [Cleaning Tape]サブメニューで、[Auto Clean On/Off]にスクロールします。

自動クリーニングが有効になっている場合、メニューオプションは[Auto Clean On]と表示されます。自動クリーニングが無効になっている場合、メニューオプションは[Auto Clean Off]と表示されます。

7. 設定を変更するには、上向きまたは下向きのスクロールキーを一度押します。
8. **Enter**キーを押します。

ソフトウェア

ソフトウェア アプリケーションのクリーニング オプション (使用可能な場合) を、ソフトウェアがドライブのクリーニングを監視するように設定します。アプリケーション ソフトウェアが自動クリーニングをサポートする場合は、アプリケーションによって指定されたスロットにクリーニング カートリッジを格納します。

注: アプリケーション ソフトウェアで自動クリーニングを有効にする場合は、LCDフロント パネルまたはWeb Administrationを介して、スーパーローダの自動クリーニング オプションが無効になっていることを確認してください。

トラブルシューティング

6

HPのサポート窓口につながる前に

HPのサポート窓口につながる前に、この章を参照して、問題の解決を試みてください。
スーパーローダの問題は、次の形態で発生する可能性があります。

- 動作上の問題
- エラー メッセージ

動作上の問題

性能の問題は、スーパーローダの動作を妨げます。この問題には、オペレーティング システムとの互換性から、フロントパネルの障害まで、さまざまなものがあります。表9に、発生する可能性のある性能の問題のそれぞれについて、考えられる原因と処置を示します。

表9: 性能の問題に対する処置

問題	考えられる原因	処置
フロント パネルに情報が表示されない	LCD への接続に障害が発生している	Web Administrationツールを使用してエラーのトラブルシューティングを実行します
スーパーローダの動作が遅い	スーパーローダがオペレーティング システムに対して正しく設定されていない	HPのサポートのWebサイト http://www.hp.com/ (英語)を参照して、互換性の要件を確認します
スーパーローダの電源が入らない	電源コードまたは電源に障害がある、またはスーパーローダの設定が正しくない	すべてのコンセントと電源コードが正しく接続されているか確認します HPのサポートのWebサイト http://www.hp.com/ (英語)を参照して、互換性の要件を確認します

エラー メッセージ

スーパーローダの動作中にエラーが発生する場合があります。エラーにより、スーパーローダは特定の動作を完了できなくなります。エラーが発生した場合、次のどちらかになります。

- エラーメッセージは表示されませんが、スーパーローダは動作の完了に失敗します。メッセージが表示されない場合は、HPのサービス窓口に連絡して、トラブルシューティングを依頼する必要があります。
- フロントパネルまたはWeb Administrationにエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージが表示された場合は、表10に示す手順に従って問題の解決を試みてください。

表10: エラー メッセージ

エラー メッセージ	説明	処置
00~25	一般ソフトウェア フラグ	<ul style="list-style-type: none"> ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおして、Healthテストを実行します ■ HPのWebサイトにファームウェア アップデートがないか調べます ■ HPのサポート窓口に連絡します
26	メッセージ送信IDエラー	<ul style="list-style-type: none"> ■ SCSIバス ケーブルおよびターミネータを調べます ■ ホスト アダプタを調べます ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおして、問題をもう一度確認します ■ HPのサポート窓口に連絡します
27	メッセージの不良	<ul style="list-style-type: none"> ■ SCSIバス ケーブルおよびターミネータを調べます ■ ホスト アダプタを調べます ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおして、問題をもう一度確認します ■ HPのサポート窓口に連絡します

表10: エラー メッセージ

エラー メッセージ	説明	処置
28	メッセージパラメータの不良	<ul style="list-style-type: none"> ■ ホスト デバイス ドライバを調べます ■ ホスト アプリケーションを調べます ■ SCSIバス ケーブルおよびターミネータを調べます ■ ホスト アダプタを調べます ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおして、問題をもう一度確認します ■ HPのサポート窓口に連絡します
29	無効エレメント	<ul style="list-style-type: none"> ■ ホスト デバイス ドライバを調べます ■ ホスト アプリケーションを調べます ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおして、問題をもう一度確認します ■ HPのサポート窓口に連絡します
2A	無効エレメントステータス	<ul style="list-style-type: none"> ■ ホスト デバイス ドライバを調べます ■ ホスト アプリケーションを調べます ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおして、問題をもう一度確認します ■ HPのサポート窓口に連絡します
2B ~ 2F	ファームウェアテーブルおよびスタックの無効	<ul style="list-style-type: none"> ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおして、Healthテストを実行します ■ HPのWebサイトにファームウェア アップデートがないか調べます ■ HPのサポート窓口に連絡します
30	POSTの障害	HPのサポート窓口に連絡します
31 ~ 38	システム監視タイプのイベント	<ul style="list-style-type: none"> ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおして、Healthテストを実行します ■ HPのWebサイトにファームウェア アップデートがないか調べます ■ HPのサポート窓口に連絡します
39	オフライン	処置は必要ありません
3A	ドアがロックされている	処置は必要ありません

表10: エラー メッセージ

エラー メッセージ	説明	処置
3B	フロント パネルが開いている	<ul style="list-style-type: none"> ■ マガジンまたはマガジン ブランクをインストールします ■ マガジンまたはマガジン ブランクを交換します (可能ならば、2つ目を試してみます) ■ HPのサポート窓口に連絡します
3C	温度超過	<ul style="list-style-type: none"> ■ 室温が仕様内になっているか確認します ■ スーパーローダの正面および背面のすべての開口部からゴミを取り除きます ■ 両方のファンが動作しているか確認します。ファンに障害がある場合は、HPのサポート窓口に連絡してください
3D	ドライブ エラー	HPのサービス窓口に連絡します
3E	ロード エラー	<ul style="list-style-type: none"> ■ ラベルなどが、カートリッジの、ラベル用の所定の位置以外に付いていないか確認します ■ 他のメディアをロードしてみます。複数のメディアで失敗した場合は、HPのサポート窓口に連絡してください
3F	アンロード エラー	<ul style="list-style-type: none"> ■ ベルなどが、カートリッジの、ラベル用の所定の位置以外に付いていないか確認します ■ 他のメディアをロードしてみます。複数のメディアで失敗した場合は、HPのサポート窓口に連絡してください
60 ~ 69	内部通信イベント	処置は必要ありません
A0 ~ A4	ピッカー サーボエラー	<ul style="list-style-type: none"> ■ Pickerテストを実行します ■ Healthテストを実行します ■ 問題が再発する場合は、スーパーローダの電源を切ってから入れなおして、テストを繰り返します ■ HPのサポート窓口に連絡します

表10: エラー メッセージ

エラー メッセージ	説明	処置
A5	移動元エレメントにカートリッジが入っていない	<ul style="list-style-type: none"> ■ 問題となっている移動元にはカートリッジが入っていることを確認します ■ Healthテストを実行します ■ 移動元がマガジンの場合、そのスロット内のカートリッジを別のカートリッジに交換して、もう一度試します。エラーが再発する場合は、マガジンを交換します ■ 移動元がテープドライブの場合、テープドライブにカートリッジが入っていて、そのカートリッジが排出されたことを確認します ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおします ■ エラーが再発する場合は、HPのサポート窓口に連絡します
A6	移動元マガジンがない	<ul style="list-style-type: none"> ■ スーパーローダにマガジンが正しくインストールされていることを確認します ■ マガジンを取り出して、再び挿入します ■ Healthテストを実行します ■ 可能ならば、2つ目のマガジンを試してみます ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおします ■ マガジンを交換します ■ HPのサポート窓口に連絡します
A7	移動先マガジンがない	<ul style="list-style-type: none"> ■ スーパーローダにマガジンが正しくインストールされていることを確認します ■ マガジンを取り出して、再び挿入します ■ Healthテストを実行します ■ 可能ならば、2つ目のマガジンを試してみます ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおします ■ マガジンを交換します ■ HPのサポート窓口に連絡します

表10: エラー メッセージ

エラー メッセージ	説明	処置
A8	移動先エレメントにカートリッジが入っている	<ul style="list-style-type: none"> ■ 問題となっている移動先に実際にはカートリッジが入っていないことを確認します ■ Web Administrationの[Command]ページを使用して、スーパーローダでHomeコマンドを発行します ■ Healthテストを実行します ■ 移動先がマガジンの場合、選択したスロットにカートリッジをインストールしてから取り出して、もう一度試します。エラーが再発する場合は、マガジンを交換します ■ 移動先がテープドライブの場合、テープドライブにカートリッジが入っていないことを確認します ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおします ■ エラーが再発する場合は、HPのサポート窓口に連絡します
A9	ピッカーにカートリッジが入っている	<ul style="list-style-type: none"> ■ スーパーローダの正面から中を見て、ピッカーにカートリッジが入っていることを確認します ■ Web Administrationの[Command]ページを使用して、スーパーローダでHomeコマンドを発行します ■ Healthテストを実行します ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおします ■ エラーが再発し、正常な動作が妨げられる場合は、HPのサポート窓口に連絡します
AA	ピッカー カートリッジ センサのエラー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 較正を実行して、正常に実行されたことを確認します ■ Healthテストを実行します ■ 問題によりテストの実行が妨げられる場合は、HPのサポート窓口に連絡します
AB	ドライブ パス センサのエラー	<ul style="list-style-type: none"> ■ Healthテストを実行します ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおします ■ HPのサポート窓口に連絡します

表10: エラー メッセージ

エラー メッセージ	説明	処置
AC	メール スロット ドア センサのエラー	<ul style="list-style-type: none"> ■ メール スロットを介してスーパーローダにカートリッジを挿入します ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおします ■ HPのサポート窓口に連絡します
AD	メール スロット ソレノイドのエラー	<ul style="list-style-type: none"> ■ メール スロットを介してスーパーローダにカートリッジを挿入します ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおします ■ HPのサポート窓口に連絡します
AE	未知のサーボ エラー	<ul style="list-style-type: none"> ■ Healthテストを実行します ■ HPのサポート窓口に連絡します
AF	エラー ログ情報 イベント	処置は必要ありません
BO ~ BF	ピッカーが正しく回転または移動していないことに関連するエラー イベント	<ul style="list-style-type: none"> ■ Pickerテストを実行します ■ Healthテストを実行します ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおします ■ HPのサポート窓口に連絡します
C0	未知のモーター エラー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 較正テストを実行します ■ Healthテストを実行します ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおします ■ HPのサポート窓口に連絡します
D0	マガジン ソレノイドの不良	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各マガジンを取り外して、挿入します ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおします ■ HPのサポート窓口に連絡します
D1	マガジン検出センサの不良	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各マガジンを取り外して、挿入します ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおします ■ HPのサポート窓口に連絡します

表10: エラー メッセージ

エラー メッセージ	説明	処置
D2 ~ D4	位置センサの不良	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各マガジンを取り外して、挿入します ■ 可能ならば、他のマガジンを試してみます ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおします ■ HPのサポート窓口につながします
D5 ~ DE	マガジン上のカートリッジ フラグの不良、またはフラグ検出センサの不良	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各マガジンを取り外して、挿入します ■ 可能ならば、他のマガジンを試してみます ■ スーパーローダの電源を切ってから入れなおします ■ HPのサポート窓口につながします
DF	カートリッジの詰まり	<ul style="list-style-type: none"> ■ メール スロット ドアを通して見て、カートリッジが詰まっていることを確認します。カートリッジが詰まっている場合は、スーパーローダの電源を切ってから入れなおします ■ カートリッジがまだ詰まっている場合は、スーパーローダの電源を切って、電源プラグを外します。詰まっていない側のマガジンを取り外します。カートリッジを慎重に押して、マガジン スロットに入れることを試みます。カートリッジを移動させるには、ピッカーを少し回転させなければならない場合があります。再び電源を入れて、取り外したマガジンをインストールし、Healthテストを実行します ■ カートリッジの詰まりが解消されない場合は、SCSI、Ethernet、および電源ケーブルをスーパーローダから取り外して、スーパーローダをキャビネットから取り外します。スーパーローダをテーブルの上に水平に置いて、トップカバーを取り外し、詰まったカートリッジをスライドさせるなどして取り出します。スーパーローダを再び組み立てた後、スーパーローダをキャビネットに再びインストールする前に、フロント パネルからHealthテストを実行します ■ 同じカートリッジが詰まる場合は、不良カートリッジとしてシステムから削除します。カートリッジに、付属のラベル以外のラベルやステッカーが付いていないか確認します ■ 同じマガジンからの出し入れの際に必ずスーパーローダに詰まりが発生する場合は、マガジンを交換します ■ 不規則に詰まりが発生する場合は、HPのサポート窓口につながします

このガイドを読んだ後で、まだ不明な点がある場合は、「このガイドについて」の「HPのストレージのWebサイト」を参照してください。

診断テスト

表11に、診断テストのリストを示します。

表11: 診断テスト

テスト	説明
Halt	現在実行中のテストをすべてキャンセルします
Self	<ul style="list-style-type: none"> ■ ピッカーの回転および移動の機能を確認します ■ インストールされているマガジンが正しく機能するか確認します
Health	<ul style="list-style-type: none"> ■ ピッカーの動きを確認します ■ マガジンの動きを確認します ■ インベントリを更新します ■ カートリッジを各マガジン エLEMENTに出し入れする機能を確認します ■ ドライブの通信と、カートリッジをドライブに出し入れする機能を確認します ■ カートリッジをメール スロットに出し入れできることを確認します
Picker	<ul style="list-style-type: none"> ■ ピッカーの移動の較正を完全に実行します ■ ピッカーの回転の較正を完全に実行します
Magazine	<ul style="list-style-type: none"> ■ 左および右マガジンの較正を実行します ■ スロットの正常な動きを確認します
Inventory	存在する各カートリッジについて記録されている現在のラベルのスナップショットを作成し、インベントリを実行して、新しい結果をスナップショットと比較します
Drive Read/Write	2つのデータトラック全体に書き込みを実行し、次に読み取りを実行して、可能ならば、データの比較を実行します。読み取り/書き込みの統計情報を確認して、ドライブに書き込みまたは読み取りの問題がないか判定します

規定に関するご注意



ご使用になっている装置にVCCIマークが付いていましたら、次の説明文をお読み下さい。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCIマークが付いていない場合には、次の点にご注意下さい。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を、家庭環境で使用すると電波障害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

各国別勧告

以下に日本以外の国や地域での規定を掲載します。

Federal Communications Commission Notice

Part 15 of the Federal Communications Commission (FCC) Rules and Regulations has established Radio Frequency (RF) emission limits to provide an interference-free radio frequency spectrum. Many electronic devices, including computers, generate RF energy incidental to their intended function and are, therefore, covered by these rules. These rules place computers and related peripheral devices into two classes, A and B, depending upon their intended installation. Class A devices are those that may reasonably be expected to be installed in a business or commercial environment. Class B devices are those that may reasonably be expected to be installed in a residential environment (i.e., personal computers). The FCC requires devices in both classes to bear a label indicating the interference potential of the device as well as additional operating instructions for the user.

The rating label on the device shows which class (A or B) the equipment falls into. Class B devices have an FCC logo or FCC ID on the label. Class A devices do not have an FCC logo or FCC ID on the label. Once the class of the device is determined, refer to the following corresponding statement.

Class A Equipment

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.

Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at personal expense.

Class B Equipment

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio or television technician for help.

Modifications

The FCC requires the user to be notified that any changes or modifications made to this device that are not expressly approved by Hewlett-Packard Company may void the user's authority to operate the equipment.

Cables

Connections to this device must be made with shielded cables with metallic RFI/EMI connector hoods in order to maintain compliance with FCC Rules and Regulations.

Declaration of Conformity for products marked with the FCC logo - United States only

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

For questions regarding your product, contact:

Hewlett-Packard Company
P. O. Box 692000, Mail Stop 530113
Houston, Texas 77269-2000

Or, call

1-800- 652-6672

For questions regarding this FCC declaration, contact:

Hewlett-Packard Company
P. O. Box 692000, Mail Stop 510101
Houston, Texas 77269-2000

Or, call

(281) 514-3333

To identify this product, refer to the Part, Series, or Model number found on the product.

Canadian Notice (Avis Canadien)

Class A Equipment

This Class A digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

Cet appareil numérique de la classe A respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

Class B Equipment

This Class B digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

European Union Notice



Products bearing the CE marking comply with the EMC Directive (89/336/EEC) and the Low Voltage Directive (73/23/EEC) issued by the Commission of the European Community and if this product has telecommunication functionality, the R&TTE Directive (1999/5/EC).

Compliance with these directives implies conformity to the following European Norms (in parentheses are the equivalent international standards and regulations):

- EN55022 (CISPR 22) - Electromagnetic Interference
- EN55024 (IEC61000-4-2, 3, 4, 5, 6, 8, 11) - Electromagnetic Immunity
- EN61000-3-2 (IEC61000-3-2) - Power Line Harmonics
- EN61000-3-3 (IEC61000-3-3) - Power Line Flicker
- EN60950 (IEC 60950) - Product Safety

Taiwan Notice

警告使用者：

這是甲類的資訊產品，在居住的環境中使用時，可能會造成射頻干擾，在這種情況下，使用者會被要求採取某些適當的對策。

静電気対策

**B**

システムをセットアップしたり、部品を取り扱う場合には、システムの損傷を防止するために守らなければならないことがあるので注意してください。人間の指など、導電体からの静電気放電によって、システム ボードなどの静電気に弱いデバイスが損傷して、耐用年数が短くなることがあります。

静電気による損傷を防止するには、以下のことを守ってください。

- 運搬や保管の際は、静電気防止用のケースに入れ、手で直接触れることは避けます。
- 静電気に弱い部品は、静電気防止措置のなされている作業台に置くまでは、専用のケースに入れたままにしておきます。
- 部品をケースから取り出す前に、まずケースごとアースされている面に置きます。
- ピン、リード線、回路には触れないようにします。
- 静電気に弱い部品に触れなければならないときには、つねに自分の身体に対して適切なアースを行います。

アースの方法

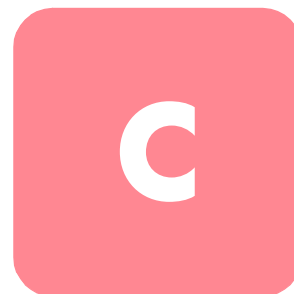
アースにはいくつかの方法があります。静電気に弱い部品を取り扱うときには、以下のうち1つ以上の方法でアースを行ってください。

- すでにアースされているワークステーションまたはコンピュータ本体にアースバンドをつなぎます。アースバンドは柔軟な帯状のもので、アースコード内の抵抗は、 $1M \pm 10\%$ です。アースを正しく行うために、アースバンドを肌に密着させてください。
- 立って作業する場合、かかとやつま先にアースバンドをつけます。導電性または静電気が伝わる恐れのある床の場合、両足にアースバンドをつけます。
- 作業用具は導電性のものを使用します。
- 折りたたみ式の静電気防止マットがついた、携帯式の作業用具もあります。

上記のような、適切にアースを行うための器具がないときは、HP製品販売店またはHPのサービス窓口にお問い合わせください。

注: 静電気について詳しくは、HP製品販売店またはHPのサービス窓口にお問い合わせください。

仕様



物理仕様

表12: 物理仕様

高さ	8.89cm
幅	44.70cm
奥行き	70.28cm
重量 (メディアを含まない)	22.68kg

性能仕様

表13: 性能仕様

エレメント ステータスの初期化	90秒 (標準)
平均カートリッジ サイクル時間	20秒
平均カートリッジ ロード時間	10秒
平均ロード時間 (カートリッジをドライブに配置した後)	59秒 (標準)
最大転送速度	3MB/秒 (非圧縮時)
ストレージ容量 (DLT1)	1280GB (圧縮時) <small>注: 標準的な2:1データ圧縮を仮定しています。実際の圧縮率は、バックアップするデータの種類によって異なる場合があります</small>

電源仕様

表14: 電源仕様

電源電圧	60Hzシステム: 90 ~ 265VAC 50Hzシステム: 90 ~ 135VAC
電源周波数	47 ~ 63Hz
AC入力電流	60Hzシステム: 6.0A rms (115VAC) 50Hzシステム: 3.0A rms (230VAC)
消費電力	60Hzシステム: 75W 50Hzシステム: 80W
電源の不連続: 電圧サージ	公称電源電圧で+/-500V パルス幅: 100ns 立ち上がり時間: 5ns 反復率: 1Hz 同相および差動モード、正および負極性
電源の不連続: 電圧スパイク	公称電源電圧で+/-1.5kV パルス幅: 1ms 立ち上がり時間: 25ns 反復率: 1Hz 同相および差動モード、正および負極性

環境仕様

表15: 環境仕様

温度範囲 (乾球)	
動作時	+10 ~ +35
非動作時	-40 ~ +65
温度変化	
動作時	10 /時
非動作時	20 /時
湿度	
動作時	20 ~ 80%、結露しないこと
非動作時	10 ~ 90%、結露しないこと
勾配	10%/時
湿球	
動作時	最大26
非動作時	最大29
高度	
動作時	-152 ~ 3,048m
非動作時	-152 ~ 9,144m

音響およびノイズの制限

表16: 音響およびノイズの制限

仕様	動作時	保管時または 非動作時	輸送時
音響	アイドル時: 55dBA以下 最大動作時: 60dBA以下	N/A	N/A

CRUのアップグレード/交換



この付録では、カスタマー交換可能ユニット（CRU）のアップグレード方法および交換方法について説明します。

次のコンポーネントは、CRUであり、ユーザまたはHPのサービス窓口の担当者が現場で交換できます。

- ドライブ キャリア アセンブリ（DCA）
- バーコードリーダー

DCAの交換

スーパーローダのDCAを交換またはアップグレードする場合、DCAまたはSCSIバスの設定をしない必要はありません。

DCAを交換するには、プラス ドライバが必要です。

DCAの取り外し

スーパーローダのDCAを交換する前に、スーパーローダの電源を切り、電源ケーブルとSCSIケーブルをDCAの背面から取り外さなければなりません。また、テープドライブにカートリッジが入っていないことも確認してください。

テープドライブからテープをアンロードするには、第4章の「1本のカートリッジの移動」または「1本のカートリッジの取り出し」を参照してください。

ドライブの交換時にスーパーローダの電源を入れたままにする必要がある場合は、この機能をバックアップソフトウェアがサポートしていることを確認しなければなりません。



注意: DCAには、静電気に弱いコンポーネントが含まれています。DCAを取り扱う際は、必ず、アースバンドを腕に巻いてください。

DCAを取り外すには、以下の手順に従ってください。

1. スーパーローダの電源を切ります。
2. DCAの背面から、すべてのコードとケーブルを取り外します。
3. DCAをシャーシに固定している4本のネジを外します。

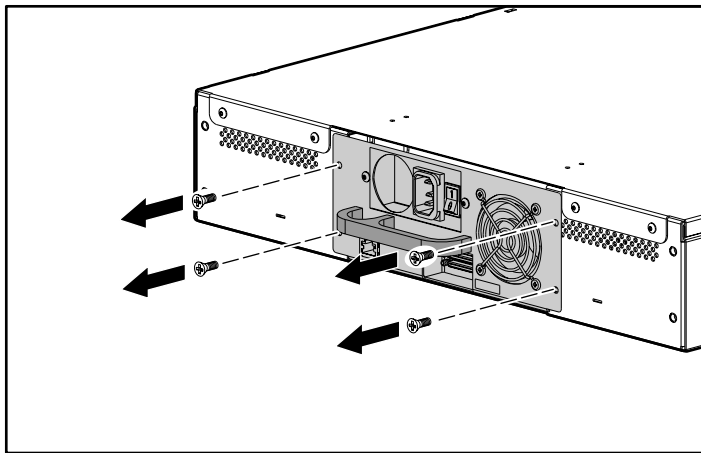


図81: シャーシ背面のネジを外す

4. 一方の手でDCAのハンドルを持ち、後方にスライドさせて取り外します。もう一方の手をDCAの下に置いて、落ちないように支えてください。

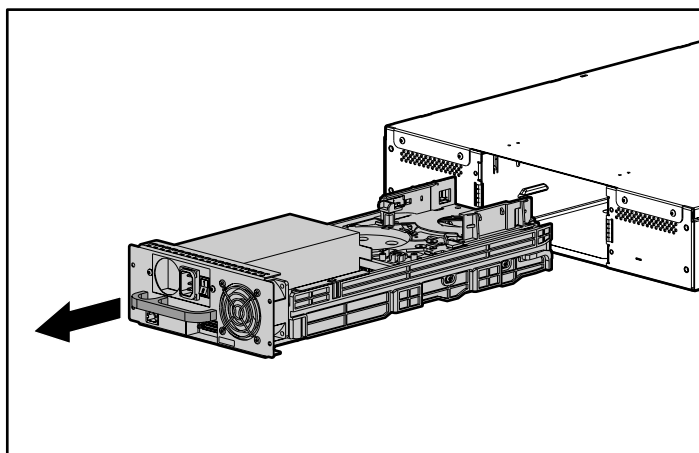


図82: DCAを取り外す



注意: DCAの底面にある露出しているボードには触れないでください。

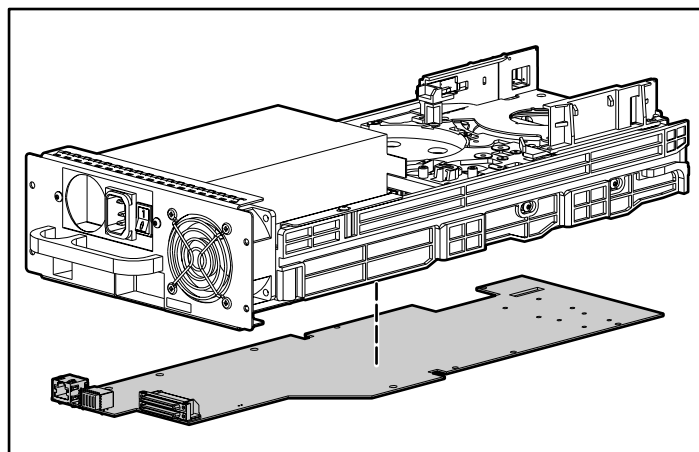


図83: DCAの底面にあるボード

DCAのインストール

DCAをインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. アースバンドを腕に巻き、正しくアース接続します。
2. 一方の手でDCAのハンドルを持ち、もう一方の手で下から支えます。



注意: DCAの底面にある露出しているプリント基板には触れないでください。

3. DCAをスライドさせてDCAベイに挿入します①。DCAの位置が正しいことを確認してください。DCAは滑らかにスライドしなければなりません。

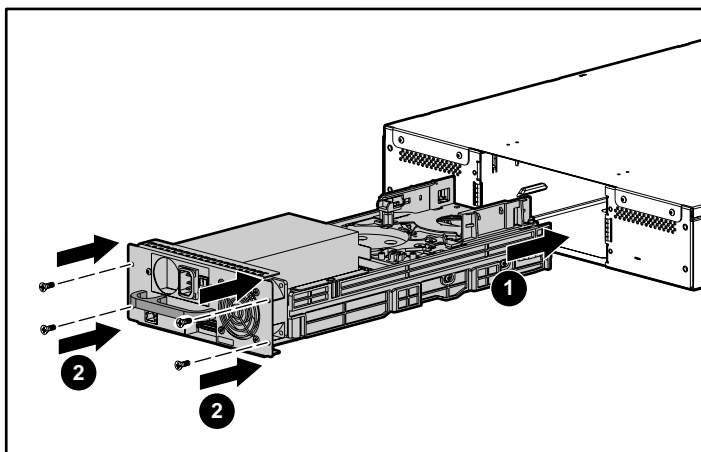


図84: DCAをインストールする

4. DCAをシャーシに固定する4本のネジを取り付けます②。しっかりと締めてください。
5. DCAの背面にある電源スイッチがオフ(0が押されている)になっていることを確認してから、電源コードとSCSIケーブルを接続します。
6. DCAの背面にある電源スイッチで、1を押してスーパーローダの電源を入れます。

バーコードリーダーのインストール

バーコードリーダーをインストールするには、#1プラスドライバーが必要です。



警告: このガイドに記載された以外の手順や制御、調節を行うと、危険なレーザー光線をあびる場合があります。

バーコードリーダーをインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. 右側のマガジンベイからマガジンまたはマガジンブランクを取り外します。
2. スーパーローダの電源を切ります。
3. スーパーローダのトップカバーを取り外します。背面に4本、正面に2本のネジがあります。
4. ピッカー上部のバーコードリーダーベイには、電子部品を保護する発泡スチロールが入っています。発泡スチロールを上へ引いて取り外し、捨ててください。

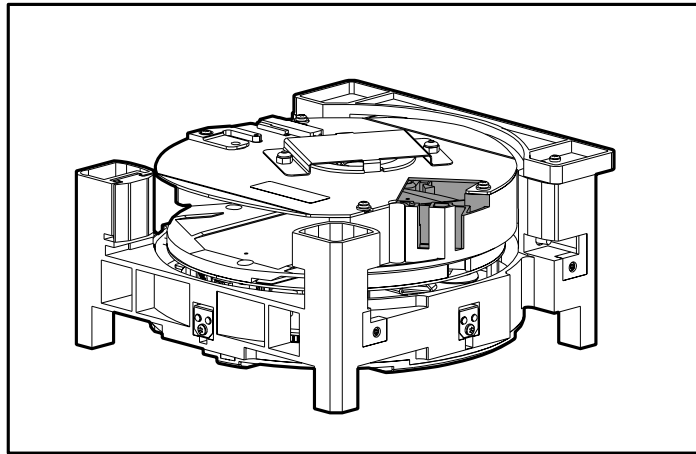


図85: バーコードリーダーベイの位置

5. バーコードリーダーベイには、細いフレックスケーブルがあります。フレックスケーブルをゆっくりと上へ引いて、まっすぐにしてください。

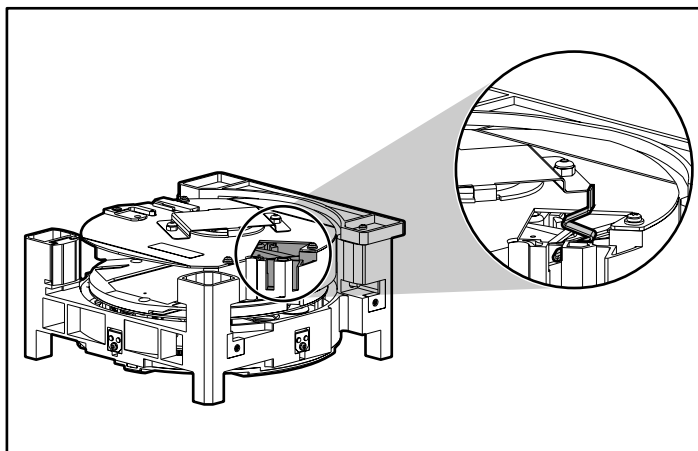


図86: バーコードリーダー ベイとフレックス ケーブル

6. バーコードリーダーをパッケージから取り出します。



注意: バーコードリーダーのミラーには触れないでください。ミラーに触れると、リーダーが正しく動作しなくなる場合があります。

7. バーコードリーダーのZIFコネクタのストレイン リリーフ機構をゆっくりと引きます。

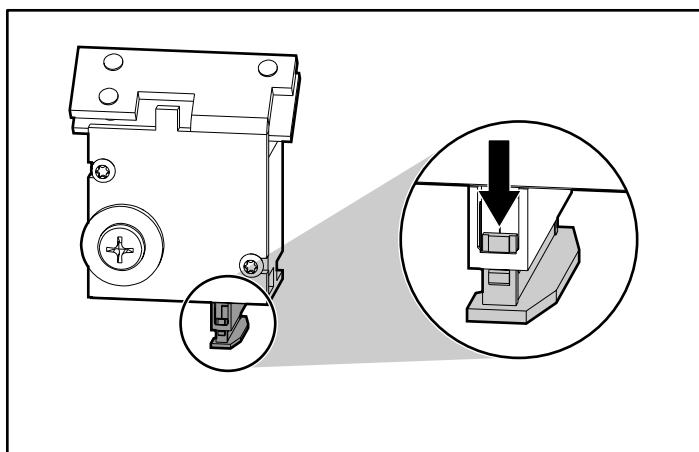


図87: バーコードリーダーのZIFコネクタおよびストレイン リリーフ機構

8. フレックス ケーブルの端をZIFコネクタに接続して、最大限まで引っ張ります。ケーブルの上側がバーコードリーダーの上側の方を向くようにしてください。

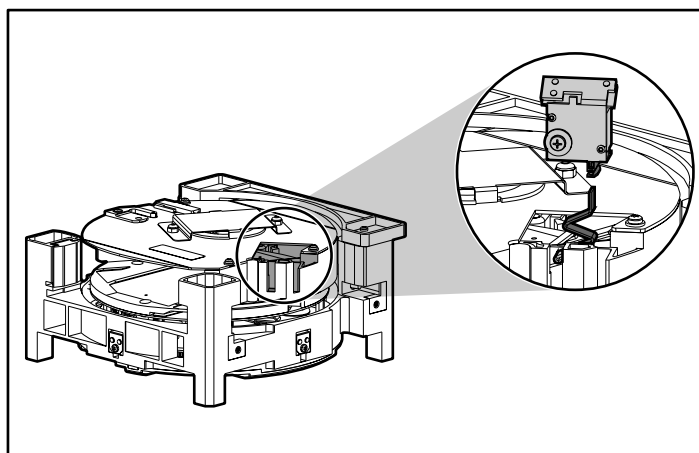


図88: フレックス ケーブルとバーコードリーダー（正しい向きを示します）

9. ZIFコネクタのストレイン リリーフ機構を元に戻します。

10. バーコードリーダーをベイに完全に挿入します。付属のネジのワッシャがベイの外側の方に来ていることを確認してください。

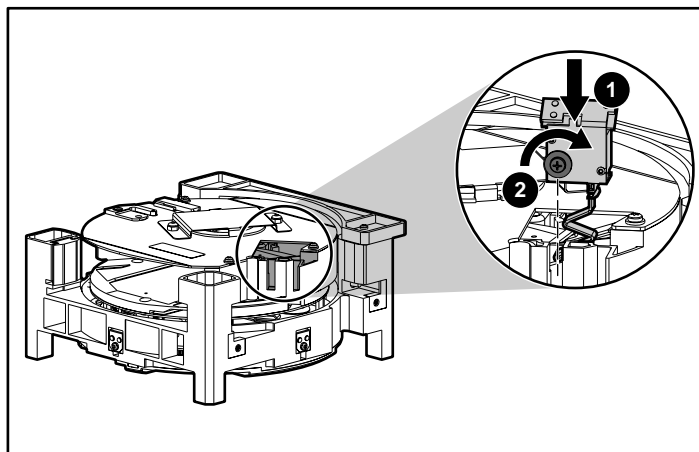


図89: バーコードリーダーをベイに正しく挿入する

11. ネジを締めすぎないように注意しながら、しっかりと固定されるまで締めます。
 12. スーパーローダのトップカバーを元に戻します。
 13. スーパーローダの電源を入れます。
- スーパーローダはバーコードリーダーを自動的に検出します。

索引

C

Cables 110
Canadian Notice (Avis Canadien) 111
Class A Equipment 110、111
Class B Equipment 110、111

D

DCA
インストール 122
交換 119
取り外し 119

E

Ethernet
情報の表示 71
接続 5、21、29
European Union Notice 112

F

Federal Communications Commission Notice 109

H

HPのストレージのWebサイト xii

I

IPアドレス
静的、設定 31
動的、設定 30
IPゲートウェイ 33

L

LCD 2、50
LED 50
ステータス 3

M

Modifications 110

S

SCSI
ID
スイッチ 25
設定 25
ケーブル、要件 10
接続 5、19
ターミネータ、要件 10
バスの要件 9
Sequentialモードの動作 28
SNMPサーバ 33

T

Taiwanese Notice 112

W

Web Administration
接続 74
デフォルトのパスワード 74

あ

アースの方法 114
圧縮オプション 73

い

インストール
SCSIバスの要件 9
検査 22
準備 9
場所 11
ラックに設置 13

え

エラー メッセージ 100
エレメント ステータス 68

お

奥行き 115
温度
動作時 117
非動作時 117

か

カートリッジ
移動 55
使用 53
挿入
1本 53
メール スロット 54
取り出し 56
書き込み禁止スイッチ 47
各国別勧告 109

き

記号
装置 xi
規定に関するご注意 109

く

クリーニング
自動 96
手動 94
クリーニング テープ
格納 92
挿入 92
取り出し 94

け

警告
ラックに関する注意 xii

こ

高度 117

さ

サブネット マスク 32
サポートされるソフトウェア 7

し

時刻
設定 37
変更 35
湿度 117
自動クリーニング 96
重量 115

す

スーパーローダ
IPアドレス 29
正面 1
ステータス 65
ステータス メッセージ 67
内部 6
背面 4
ステータス情報 65

せ

制御モード
設定 26
静電気対策 113
セキュリティ
設定 38
設定
メニュー 24

そ

装置の記号 xi
ソフトウェア
サポート 7

た

タイム サーバ 34
高さ 115

て

デイジー チェーン 21
テープ カートリッジ
検査 44
使用方法 43
保管 46
保護 45
輸送 46

- テープドライブ
 - クリーニング 94
 - ステータス 70
 - バージョン 70
- デフォルトのパスワード 52、74
- 電源
 - ACプラグ 4
 - オン/オフ ボタン 3
 - 投入 21
- と
- 動作上の問題 99
- ドライブ キャリア アセンブリ 6
- は
- バーコードリーダー 7
 - インストール 123
- パスワード
 - デフォルト 52、74
 - 設定 39
 - 忘れた場合 41
- 幅 115
- ひ
- ピッカー 6
- 日付
 - 設定 37
- ふ
- ファームウェア
 - アップデート 73
 - バージョンの表示 67
- ファームウェアのアップデート 73
- ファン
 - 冷却 4
- ファンクション キー 2、49
- フロントパネル
 - 各部 49
 - デフォルトのパスワード 52
- ほ
- 本文中の記号 x
- ま
- マガジン
 - アンロード 58
 - インストール 60
 - 向きの変更 64
- め
- メール スロット
 - 挿入
 - カートリッジ 54
- ら
- ラックに関する注意、警告 xii
- れ
- 冷却ファン 4
- ろ
- ログアウト 52